

学校規模適正化第2期実施計画（案） 北千里地区合同説明会

1 日 時 平成18年5月14日（日）
午前10時～午後12時30分

2 場 所 北千里地区公民館

3 出席者 北千里地区在住者 約68名

吹田市教育委員会	理事	北野 徹義
教育企画人権室	室長	西川 俊孝
学校教育部	総括参事	梅田 信明
	総括参事	高橋 一秀
指導課	課長	富田 卓己
教育企画人権室	参事	本田 正勝
	主幹	上村 里三

4 進 行

(1) 高橋総括参事 配布資料「学校規模の適正化を進めます」「第2期学校規模適正化事業実施計画（案）検討概要」「適正化に向けての4案の評価比較表」に基づき説明

(2) 質疑応答

5 質疑応答の要旨等

※ 発言者について

発言者・・・・・・・・・・発言者の順にアルファベットで表記

教育委員会事務局・・・・「教」で表記

発言者A氏

A 現在、青山台小学校が非常に少子化が進んでいて、北千里及び古江台がほぼ適正規模で、藤白台に関しては大規模化が進んでいると。今日いただいた資料の中にもありますように、藤白台小学校の増員の要因である上山田地区の今まで竹林であった分がマンション化されて、現在でも上山田地区ではマンションの建設工事が進んでおります。それで今後についても藤白台小学校についてはまだ大規模化非常に進んでいると思われる状況はありますけれども、北千里小学校が適正規模を維持できているというのは、やはり古江台3丁目での従来の社宅がマンションになったと。青山台側につきましては、あまり今までの古い団地は建替えが行われていないがために、人口の少子化、世帯数の老朽化が進んでいると。古江台3丁目においてもまだ、今現在マンションの建替え計画があり、近々でも100戸近いマンションの増が計画されていると聞いています。そうした中で古江台（3丁目）地区を古江台小学校に統合した時に、藤白台小学校のような

大規模化が進むのではないかと。そうした中で、やはり古江台小学校も大規模化になってしまうと、後々北千里小学校があった方がいいんじゃないかとか、また逆に市として青山台地区としての少子化対策を何かマンションの建替え計画だとか、市としてそういった何か少子化対策を行う計画があるのか教えていただきたいと思います。

教 今後の開発等に伴って、それぞれの地区がどういうふうになっていくかということのご質問で、それを教育委員会としてどう考えているかということですが、確かに藤白台地区につきましては、上山田地区を中心に開発が進みまして、非常に藤白台小学校が過大校化しているという現実がございます。ただ、それにつきましては、我々がかんでは、平成18年が1つの藤白台小学校のピークになるだろうというふうな児童推計をつかんでおります。その後、藤白台地区については、児童数が減少していくということがございます。ただ、藤白台地区につきましては、集合住宅の建替え計画がありまして、これの建替えがどうなっていくかということと非常に関連はしてくるわけなんですけれども、この4案の比較表の中でもお示しをさせていただいておりますように、建替えによる住宅戸数の増は基本的には無いと聞いております。ただ、余剰地を生み出して、それを民間に売却しながら経費を作り出していくというような、最近そういう傾向があります。そういう余剰地が仮にできまして、民間開発によるマンション等が建ちましても、基本的には現在の藤白台小学校の開発のピークが経過した後でありまして、その分については藤白台の現在の学校規模で対応できるのではないかと考えております。同じようなことが古江台でも言えます。古江台地区も、現在古江台小学校は適正規模の範囲で推移をしております。この地域も一定集合住宅の建替え計画がございますが、これについては、もし仮に同じように余剰地を売却をし、そこに民間開発によるマンション等が建つということも一定想定はされますが、その開発によって、出現してきます子ども達の対応については今の古江台小学校で十分対応できるのではないかと見ております。青山台地区につきましては一定、集合住宅の建替え計画がありますが、これについては非常に数が少ないということがありまして、仮に余剰地に民間開発によるマンションが建ったとしてもこの開発による児童数の出現というのはそう大きく青山台小学校に影響するような数字にはならないと考えております。そういうことから、青山台地区の人口誘導策と言いましょか、どういうふうな開発をしていくのかというようなことにつきましては、ニュータウン全体をどう見ていくか、どう分析し、今後どういうふうな街づくりで再生していくかというような組織が吹田市の中で出来上がってきまして、今後この地区について、一定どういうふうな予想、更に人口誘導が必要な場合、そういう誘導策というようなものも、検討していくということになって参ると思うんですけれども、青山台地区についての今の誘導策がどうかということについては、今直ちに私達のレベルでは明確にお答えができないというのが現状でございます。

A 古江台小学校・青山台小学校ともに昭和40年ごろ開校、北千里小学校につきましては50年、ともに40年および30年経過しているわけですが、その中でやはり

適正規模を維持できているというのはそれなりの新しい世帯が増えている、外から入ってきて増えていっているというのがあると思うんですよ。それに大してやはり青山台地区につきましては、住宅設備の更新ができていない。ニュータウンができた当時の団地がそのまま、もちろん改修・改造され、より近代化が進んでいると思いますけれども、根本的な人口増の要因としての対策が吹田市として行われていないと。例えば、藤白台で行われたかのような近隣センターを再開発し、そちらに対しても新たな住民を誘致していくと、そういった形ででも市としてできるレベルのものも十分な案ではないかと。今の都市機構だとか住宅供給公社それぞれの建替えに頼るのではなく、市としてもより少子化対策、人口増の案を用意されるべきだと思います。そうしなければやはり、市として人口が根本的に減っていくことを、市が容認していってしまうと。それはもちろん税金の収入の減になるだとか、そういった既存の住民に対しての不利益を今後増えていく、出てくるものと想像されます。より新しい世帯を誘致していく、より少子化を防ぎ、より子どもの人間を増やしていく、頭数を増やす、そういった政策として市としてより取り組んでいただかないことには、ニュータウン全体としての、千里ニュータウンと言われてはいますが、もう既に出来上がって40年、ニュータウンでなくオールドタウンと呼ばれている状況にある中において、やはりその辺は人口をよりどうやって動かせるか、子どもの数をどうやって増やしていくかというのが市として方針を定めていただいて、それをより実行していただきたいと思います。

教 今おっしゃいましたようなご意見については非常に大切なこととっております。これについては、ある程度長期的な企画と言いましょうか、そういうことも必要になって参りまして、これから当然、吹田市のニュータウン全体の街づくりのリニューアルと言いましょうか、再生というのは非常に大きなテーマ、正におっしゃっているようなテーマで我々もその一員として検討をしていく必要があるというふうには認識はしております。

A 人間が減ったから設備を減らしていく、施設を減らしていくのではなく、よりそれを前倒しにどうすれば減らさないのか、減らさないで済むのか、後々それが増えた時にまたそれを増やすのでは何をやっているのかわからないことになりますので、やはりそれはとにかく減らさない方向、増やす方向で考えていただいて、減ってしまったから施設を統廃合して数を減らせばいいというのではないと思います。

教 そういうお考えも確かにあろうかと思えますけれども、私どもとしましては、今回提案をさせていただいている適正化につきましては、青山台小学校の状況というのは非常に小規模校化をしまして、問題が多いということで、それに対してどう対応していくかというような、短期的・中期的な話であるわけですがけれども、今おっしゃいましたようなニュータウン全体というのはもう少し長期的なレベルで考えていく必要があるということで、ちょっと現実的な部分と将来的な構想との我々の認識と言いましょうか、その違いについては認識しながら、仕事を進めているわけですがけれども、確かにおっしゃい

ましたような部分での長期的な考え方というのも当然必要な部分ではないかなというふうには思っております。

発言者B氏

B 私の子どもも北千里小学校を3人卒業しまして、今は社会人になったりしております。以前一度お願いしましたように、北千里小学校は非常にいい学校でございまして、今まで非常にいい子ども達が育っていきました。去年から、検討会を傍聴もしておりますけれども、先ほどご説明もありましたように、賛成側、反対側でこれだけ対立してやってきた検討会を一旦中断して、今回、昨年に私も傍聴しか出来ませんでしたけども、一旦中断して、今回この案をふみきろうとするというのは、あまりにも私、今日子どもも来ておりませんけれども、前回お願いしましたようにOBとか卒業生も含めて、北千里小学校を無くすということは大変なことだと思います。これについて、吹田市の民主主義というんですか。この進め方というのは大変なことだと思っております。前回もお願いしましたように、市民会議のような形で賛成派、反対派を含めて、また第三者の客観的に判断出来る方もいれて、是非検討してほしいとお願いをしておりますけれども、今日のご説明では、今もご説明がありましたように、青小の少子化を防ぐためにすると、明確におっしゃいましたけれども、こういう案では、我々はもう卒業生、OB含めてまったく納得がいきません。今は、なおかつ、先ほどごございましたように、現職のPTAさんが、昨年からも傍聴しておりましたけれども、PTAとしては「勘弁してくれ。」と、「もうちょっと検討してくれ。」という決議文を何度も出されております。これについてどうなんですかね。行政含めてしっかり検討して、地域が分断されないようにしっかりやっていただいているとはとても思えません。ちなみにPTAのOBとか含めて地域活動では、青対、青指等いろいろな役についております。この中で、いろいろ議論が分かれておまして、中では対立も起こっております。みんなが、せっかくボランティアでいい形でこの地域をやっていこうとしていく中で、この教育委員会さんのやり方について、まったく納得いきませんけれども、もう1度、今回の主旨と今後の進め方、市民会議をどうするかちょっと教えていただけませんかでしょうか。

教 市民会議について、進め方も含めましてご質問をいただいたわけなんですけども、北千里のPTAの方で決議文という形で市民会議の立ち上げの要請いただきましたので、我々としてもそれは検討するというふうにお約束をしておりますので、現在、皆さん方がイメージされている市民会議についてどうすべきかということについては、教育委員会の中で検討進めておりますので、その結論を早急にはお伝えしたいというふうには考えております。

B じゃあ具体的にいつまでにどうされるかを教えていただけるのか、お役所の方でどういう段取りなんですか。これは平成19年度ですか、具体的な案をだされていますよね。かたや、市民会議で第三者の意見を聞いて当然、賛成派、反対派を含めて調整し

て、とにかく地域がうまくいくようにもっていくと言うべきだと思うんですけども、かたや、案を出されてるということは、今後、行政としてはどういう段取りなんでしょう。かたや、もう進むようにされているのでしょうか。

教 教育委員会といたしましては、16年度に検討委員会で意見をまとめていただきたいというような形の中でやったわけですが、実際はまとまらなくて、その会議そのものが非常に紛糾したという経過がございますので、それで私達といたしましては、再度、検討委員会を立ち上げることについては、地域にこれ以上混乱をもたらすということについては、教育委員会としては非常に遺憾でありますので、だから新たに代替案を説明をする中で、地域全体の総意を、その辺を教育委員会として把握をする中で、一定の決断をして参りたいと、こういうふう在去年の11月から説明してきたわけなんですけども、北千里小学校PTAの方から、そうではなくて、もう一度その市民会議的なものを立ち上げてほしいという決議文が出ましたので、改めて市民会議を立ち上げることについてはどうかということで今、現在、教育委員会の内部で検討させていただいております。

B そういう意味ではまだ、案が決まっておらずに前回もお願いしましたように、この中にも過去の10何年前のPTA会長さんとか何名もお越しですし、地域でいろいろな役職やっておられた方もおります。子ども会とか青対とかいろいろな役をやっておられた方もおられますけども、そういう中から第三者、有識者をに入れていただいて、しっかりと子ども達のことと、地域のいろいろ老人会も含めて、いろんな施設とかいろんなこともありますけども、総合的にしっかりと考えるということを進めていかれるということで理解してよろしいんですか。

教 私が今、答弁させていただきましたのは、まず、そういう市民会議が立ち上げられることが出来るかどうかということについて検討を進めておりますので、それで地域の皆さん方のいろんな考え方については、例えばこういう場がありますとか、いろんな場の中で意見は聞いてきているわけです。もちろん、PTAを始めとする場がありますとか、地域の役員の皆さん方の協議の場がありますとか、こういう形の場でそれぞれご意見を聞いてきているわけです。その中で全体の地域の総意がどういう所にあるのかということも教育委員会としては把握をしたいと。当然、我々が出しております案につきまして、皆さん方がどういうご意見があるのか、そういうことも掌握しながら、教育委員会としては判断して参りたいとふうに考えを説明しているわけです。それで、その中で再度、市民会議を立ち上げてほしいというご意見がありましたので、今、現在その市民会議を立ち上げることが可能かどうか、そういうことについて検討していると、そういうことであります。

B 検討いただいているのは結構なんですけども、実際の予算とか段取りだけが早く進んでいるような感じがしまして、早く5月中にでも選んでいただいて、そういう場を立ち上げていただけないでしょうか。それはいかがでしょうか。

教 現時点では検討しているとしたか、答えようがありませんのでそれでご了解していただきたいと思います。

B わかりました。そういう意味では、もう1つ、地域から意見を聞くということで前回お願いしたと思うんですが、自治会、私は加盟しておりますけれども、自治会に入っていない方を含めまして、全戸に配布して、吹田市報でこういう説明会は案内するべきだと思うんですけども、今回それはちょっと出来てない気がしますけれどもいかがでしょうか。

教 今日の開催は、全戸配布させていただきました。

B 非自治会には回ってないらしいんです。その辺り、私も地域の者で自治会活動を今までずっとやって参りましたし、やんなアカンと思ってますけども、まあやっぱりいろんな事情とか、いろんな形で日本全体がそういう活動には弱くなっていますけども、これは税金を使って自治会、自治会員、関係なく子ども達をどうするかという課題ですので、全戸にしっかり行政から配布して、場合によっては吹田市報を等、提示するという話をしないと地域の意見を聞いたということにはならないと思うんですが、それはちょっと今回手落ちだと思います。しっかりお願いしたいと。ですから何度もですね、とにかく由緒ある北千里小学校をなくすかどうかという話をこんな形で、一部の形で進めていくのは大変問題だと思っていますので、今日はいろいろ役所の人権関係の方っているんですか、子ども達の学校の人権を含めて、子ども達のことをどうするかっていう方もお見えになっているみたいですので、是非そういう視点でもう一度、しっかり聞くと、小数意見もしっかり聞くと、子ども達のためにどうするかを考えてもらいたいと。そういう意味では、市民会議を早く立ち上げて、まずOBの会長にも全部連絡してほしいと思います。過去、創立以来、ボランティアでやってまいりました北千里小学校を良くする役員を集めて、「どうするんだ。」と、「本当にどうやっていくんだ。」ということをやっていたきたい。そういう意味では、市民会議の中にそういう方も入れて、早く検討を始めていただきたいと思いますが、今日は回答でないんですね。日付の回答とかは。わかりました。そういう意味ではまず、もう一度確認しておきますけど、今日の場合は説明、地域への配布が全部出来ていないと、今日の場の設定ですね。民主主義という視点でちょっとしっかりやっていただきたいと、もう一度説明会をお願いしておきたいと思います、地域説明。吹田市報、全戸配布、それはいかがですか。回答いただけますか。

教 我々としては、地域にお願いをして今回の開催については全戸配布していただくように、それぞれの市民ホールを通じてお願いをして、我々今日はですね、通知をされているものだとお参っております。だから、もしそれが回っていないということでしたら、その部分については再度、調査をしたいというふうに思います。何故回らなかったのかということも含めまして調査をしてみたいと思います。それから、市報の件でございますけれど、吹田市のその市報について、これは数ヶ月前から予約をしないとなかなかスペースがとれないという事情がございますので、今回もこの会場設営にあ

たって、時間的な余裕がございませんでしたので、もし今後そういう事がありましたら当然、我々としても広く PR するというのは当然のことでございますので、そういう努力はさせてもらいたいと思います。

B わかりました。あと、OB の役員を集めていただくというのはどうでしょうか。

教 それは、自らの皆さん方のお力でやっていただきたいというふうに思います。

B わかりました。ということで、お話もしましたけども、是非、慎重にお願いしたいのと、まずとにかく現職の、今一番、子育てで悩んでおられる現職の PTA さんのご意見をよく聞いていただいて、じっくりこの地域で対立が起こらないように、みんな仲良く良い地域をつくりたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

発言者 C 氏

C 今回、私は十ブロック自治会に在籍してまして、今回、回覧当番という役員をしているんですけども、そのところに今回の会の案内がきたんですけども、全戸配布ではなくて自治会員のみの紙だけしか来ませんでした。これは会長さんの方にも確認したんですけども、初めから会員分の部数しかプリントされていなくて、それしか入っていませんでした。それで、だから全員どうやって知りえるのかが、ずっと疑問だったんですけども、貰ってからこの日までの期間が短かったのでどうもする事が出来なかったんですけども、それについて、本当はそうであったということだけ報告なんですけども、よろしく確認のほうお願いします。

教 はい、またその点につきましては、こちらの方でも確認して参りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

発言者 D 氏

D この問題が起こってからずっとどちらかというに関わってきたんです。古江台 3 丁目で子どもが一人卒業して青中におりまして、今、子どもが小学校五年生の女の子がおります。話し合いを聞いて参りまして、一番気になるのはいつも市役所の方が、説明会、検討会、小学校の話し合いがありましたが、いつも回答がその場その場で変わってくるんです。今回、もっていただいて何か質問する、それで回答がある、次、「あれはああいうときああ言いましたよね。」って言ったら、「そんなことは言ってない。」とか、「覚えてない。」とかいつもころころ変わるんです。一番私が気になっていまして、北千里小学校の中で話し合いをしていた時に、「この案は（教育）企画室で考えました。この六人で考えました。小学校の小学生の人数を計算したらこれが一番いい案だ。」と、「六人で考えた。」と、おしゃっていましたが、私はちょっと公務員であるから、ちょっと言い過ぎたかなと思って、市役所に行ったときに、一番気になったのは「この案は圧力がかかって出来ておりますので、おたくらのように反対があるのは仕方がないと思います。」っていうふうに担当の方がおっしゃったことです。それが私は一番気になってい

まして、最初から圧力で出来た案を持ってきて、説明会とか何とかって考えますけれども、その時に「どういう圧力がかかっているんですか。」って本当は聞きたかったんです。行政を預かっている方ですから、一つの圧力だけで出来た案をごり押ししてこういうふうにするのは非常に困るんです。いろんな案を聞いてするのが行政だと思うんです。それが行政の公平性なのに、地域の圧力か、何かわかりませんが一方的なことだけの圧力から出来た案をこういうふうに地域に押し付けてくるのは、私は非常に腹がたちます。その発言を聞いた時、私は特に内々に何か情報をもらおうと言ったわけではないのに、そちらから言い出したことです。もう一つ非常に心に残っているのは、教員出身の教育委員会の方がどうしてこんなに急ぐのかがわからないと一人の方がおっしゃったことです。それも私は別に情報を得ようと思って行ったわけじゃなくて、ちょっとご挨拶、言葉がすぎたかなと思って誤りに行ったときに聞いたことです。行政職一本で来た方は非常にこの案を急いで。それで、「教員出身の私にはわからない、どうして行政が急いでいるのかがわからない。」そういうふうにおっしゃいました。ずっとそのことが心にあって聞きたかったんですけれども、ずっと今まで遠慮して聞かなくて済みました。この件について、お願い出来ますか。そしてもう一つ、一番最初の時に、北千里小学校 PTA の同意が無ければやらないとはっきりおっしゃったと思います。これも、この前「言ってないです。」「みたいなことで、「覚えてない。」っていうから、「そしたらテープ起こしをしてください。」とか言いましたけど、その場、その場でその場を取り繕っているような発言を私は真剣に考えて、そういうふうに言われているならば、「そうかなあ。」とここまでやってきました。あまりに人の心をもて遊ぶような説明会とか発言はやめてほしい。子どもがかわいそうです。

教 どういうふうにお伺いしているのか、ちょっと何が焦点なのか。

D 「圧力がかかっている。」っておっしゃった。その圧力っていうのは何ですかね。

教 圧力というお話ではなかったのではないかなというふうに思います。今までの経過から考えてみまして、「それは教育委員会だけの案ですか。」というような、そういう質問があって、そのやりとりがあったんだと。これは当然、地域からの一定要望も踏まえてというふうなお話を今までさせていただいたと思います。我々は、それは決してその圧力とか、そういうふうには考えておりませんし、やっぱりそれは一つのご意見、ご要望というふうな位置づけですし、当然北千里ともいろいろお話をする中でいただいている分については、それは決して圧力というふうにも理解しておりませんし、やっぱり一つの考え方、ご意見というふうに思っておりますし、その分についてはそういう誤解をなさっておられるのではないかなというふうに思いますが、そういうふうな発言をしたということでは決してないというふうに思います。それから、急いでいる、急いでいるということの中身ということなんですけれども、私どもは一定こういう取り組みをする場合には、やはり目標年次というのを定めてやっております。今回は19年4月ということとで一定の目標を定めてやっております。この19年4月というのは、青山台の状況を

考えた場合には、やっぱりこれはいち早く取り組むべき中身だろうというふうな理解をしておりました。そこから、一定やはり目標年次ということで少し猶予期間を持ちながら、19年4月という目標でもって、再度代替案を去年の11月にお示しさせていただきましたというような経過です。それからもう一点、北千里小学校のみなさん方が同意をしないと何かこのことについては踏み込まないと申しませうか、実施することについてうんぬんというふうなご質問がございましたけども、私どもも出来るだけご理解をいただくということが基本というふうに思っております。その中で、いろいろなご意見をいただいた分を、これはPTAだけのご意見ではなく、地域のご意見も伺いながら、北千里だけではなく、青山台、古江台のPTAの皆さん方のご意見も伺いながら、これは総合的に教育委員会として、一つ判断していく中身だろうというふうに思っておりますし、スタートの時点もそういうふうに思っておりますし、そういう中身の発言というのは、議事録を見ましても、そういう中身の発言をしてないということで、前回も少しそういうことをお答え申し上げたと思うんですけども、そういう状況です。

教 あと発言をされる方はどれぐらいおられますでしょうか。教えていただけましたら、お1人の時間配分もお考えいただいて、進めていただくことができるかと思うんですが。会場より ちょっと、そのことなんですけども以前何かの時に予算のことを聞いたときに、新聞で予算のことを聞かれなかったから、そのことは答えないというコメントを、予算のことを聞いてないから、答えなかったっていうことを、どっかで読んだんですけども、やっぱり疑問を持つことってあるんですよ。今、疑問がなくても、皆さんの話を聞いていて、また疑問を持つことがあるから、皆さんが納得いくまで時間を切らないで、聞かなかったから答えなかったという答えを出さないでほしいんです。みんなの意見を聞いてて、後から聞きたいことが出てくるかもわからない。だから予算の時のそのことが、すごく納得いかないんです。時間を切られてずっと来ているのに、聞かなかったから答えなかったという、そういうことではすごく納得いかないから、みんなが納得いくまで時間をとって、それでこの会を終えて欲しいんです。

教 もちろん十分ご理解いただけるような形で、この会を進めて参りたいと思います。ただ無制限にということではどうかなということもありますので、一応、お一人ある程度の時間でご質問していただくということで、お願いしたいなというふうに思います。それではよろしく願いいたします。

発言者E氏

E 代替案に関しての単純な質問なんですけど、(以前配付の「学校規模の適正化を進めます」の)3ページ目の「古江台3丁目の在校生は青山台小学校を選択することも可能とします。兄、姉と同じ小学校の通学出来ることも可能とします。」とありますけれど、ここにおいて何故、中学生、新一年生に関しては「古江台3丁目在住の場合、青山台小学校に

通学していても、古江台中学校に通学することとします。」というふうに断言しきってしまわれるのか、その辺が中学に関することの説明が余りなされていないと私は感じるんですが、だいたい古江台3丁目といいますのは平成12年度、13年度のあたりを前後としまして、新しく建て替わって分譲されたマンションがほとんどだと思います。そして、その子ども達のことを考えて、やはり小学校も中学校も近いこの地を選んだと思うんです。それを突然、中学校は遠いところへ行ってくださいというふうに、急に投げかけられたものだったとしたら、やっぱり納得いかないと思うんです。それであれば経過措置ということで、中学も選んでもいいというふうに何故ならないのかというところの説明が一つもされたことがないと思うんです。ですので、こういった大事な問題は、5年・10年かけて住民の方と共に十分話し合われて内容も切磋琢磨されてやられたらいいと思うんです、どうしてもしたいのであれば。そういった事を気持ちも考えないで、子どもの頭数だけを駒のように動かすというやり方は、少しちょっと納得いかないで、その中学校の選択制という、経過措置といったようなこともお考えではないのかどうかというところをお聞かせ願いたいんです。

教 中学校の方の選択制について、教育委員会の方はそういう部分での余地はないのかというご質問だと思うんですけども、今回代替案でお示しをしております経過措置につきましては、これまで北千里小学校の特にPTAの皆さん方とお話をする中で、北千里小学校に今通っている子ども達の分断、これについて分断しないでほしいというふうな要望がございました。そういう経過から古江台3丁目の在校生については、青山台小学校を選択することも可能とするということで経過措置を設けました。それで、良好なコミュニティ形成という部分では、やはり基本的には古江台3丁目の在校生についても、古江台小学校に通っていただくというのがベターというふうに私どもは考えております。それで中学校におきましても、青山台中学校の選択もありということになりますと、さらにこの問題も拡大する可能性があるんじゃないかということもあります。仮に、小学校時代の友達同士の別れと言いましょうか、そういう部分と少し中学校として、そういう経験、新しい環境に対応できる人間的な成長というようなことも期待できると、そういうような判断から、現在のところ中学校では選択制を認めることについては、基本的にはなかなかできないというような案で今回お示しをさせていただいております。

E 中学生になるとそういった判断をできるとおっしゃいましたけれども、全ての子どもがそう出来る人間がいるとも限らないというものもあると思うんです。それぞれ事情もあるじゃないですか、体の事情だとか、もっているものとか。そういったところがあって考えて、(北小校区に)来てる親もいるということもあるので、個人的な事になってしまっただけですが、配慮いただけたらと思ったんですけども、やはりそういったことは考えていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

教 基本的には、今回、中学校の分については、我々としては選択制は認めていけないというふうな基本的にはそういうふうにご検討しております。ただ、個人的な事情という

のは、いろんな教育委員会の制度がございます。そういう個人的な事情も全く聞かないで、そういうふうな形で決められた方法でということでもございませんし、だから個人的な事情があれば、その個人的な事情に応じたご相談といいたいでしょうか、そういうことでもありますので。ただ一般的な方向としては、今申し上げましたような形での校区変更をお願いしていきたいというふうに考えております。

発言者F氏

子どもが5歳なんで、今度小学校に上がるということでこの説明会を聞かせていただくと同時に、上の子どもが2人、現在、北千里小学校の方に通わせていただいているのでちょっといろいろお伺いしたい。北小の青山台1丁目子ども達青小に行くという案をちょっと聞きたいんですけども、給食設備が整わないから青小の子ども達を呼べないってここに書いてあるんですけども、実際何食までだったら北小は給食設備で作れるんですか。

教 現在、対応できる広さといいたいでしょうか、北千里小学校は400食までというふうに聞いております。青山台小学校は600食まで、古江台小学校は500食までというのが現在の広さで多少改修でありますとか、工夫はしていく必要があるでしょうけれども、基本的にそういう食数に対応できると聞いております。

F きっちりとした数字でお出しただきたと思うんです。それはなぜかといいたすと、30年前から給食って増改築で狭くなったりしてませんよね、北千里小学校。私どもが、一番最初30年前には小学校1年生が6クラスありまして、400食しか作れなかったなんてとてもじゃないですけど考えられないです。まず550食は作れてたかなとは思いますが、それでしたら今の青山台小学校のお子さん全部来ていただいても560食、あと10食だけっていう形になりますんで、十分今の形で増築を行わないとしても、対応できるかなって思うんです。それで、教室のほうもテレビ室とかいろいろ作って特色を出してあるために、教室が無くなっているという形なんですけども、実際に30年前は、余っている教室を使って学校運営出来たかと思うんで、青山台小学校の単学級で問題になっている位の人数でしたら来ていただいて、十分動かしていけるかと思うんです。それで、青小と北小の人数の差が150人ありますんで、150人の子ども達が今更、急に学校校区を変わってお友達と別れたり、悲しい思いをするために押し切るのはどうかなと思うんです。ここに理由がいろいろ書いてあるんですけども、「不便地域が生じ」とありますけども、実際、青山台地域、先ほどもおっしゃったんですけども、府営の方も建て替えの方もあまり聞いておられないとかもありますし、長期的にニュータウン的には考えたいという形で、青山台小の方の人数が増えないのであれば、私ども青山台1丁目人間が行って、どこ見てたんかっちゃうになるのであれば、北千里小学校の方に皆さんお迎えをして、150人の子ども達が泣かないように、近所の子を見守っていますんで、来ていただければどうかなと思うんです。「地域の方の避難所、

生涯学習施設の提供が出来ない」とあるんですけれども、そういうののために子ども達が泣くのはどうかなと思ひまして、避難場所等はまた市の方で、いろんな公園もありますんで考えていただいたり、生涯学習施設とかもどのみち青山台に住んでる方でも、青山台のショッピングセンターの、大きなスーパーも撤退しまして、子ども達もあまり行っていない状態なんで、人の流れも北千里の方に向かっていきますんで、どうしてもっていうんですたら、宝塚市の方でやっているような地域巡回型バス等の費用を捻出していただいて、子ども達を送り迎えをすると同時に、老人の方々も一緒に乗せていただくような、そういう新しい案の一つも出していただかないと、私ども北千里小学校の人間は「何々教室を増やすから。」とか言われたって全然ピンとこないんです。今までもずっといろいろ抵抗というか、多分、青山台小学校の方にしてみたら、北小の父兄は怖いなって、ずっと抵抗してあの人達が来たら怖いなと思われてる方もいっぱいいますし、それでしたら青山台の地区のお年寄りの方をも、いいような巡回バスとかも、もっと地域全体の事も考えてお子さん達もこちらの方に来させるという案も考えていただきたい。「お金を使わないでなんとかしよう、なんとかしよう。」というのはどうかなと思うんです。実際、小学校の給食室を増築するのと青山台小学校のアスベストの壁がはつれてしまうのと、どれくらい費用の差があるんでしょうか。

教 まず、給食の状況というのが、ご質問いただきました方の給食の時代といひましょうか、それと現在とでは大分、充実度合いが変わってきています。最近の給食というのは米飯を含めたり、それから給食そのものの食材が充実してきたりということで、以前の準備、対応のスペースをそのまま今のスペースに対応できるかというのは、決してそうではないということになっています。ですから、一昔前は500食対応のスペースがあったけれども、今はそれは400なり300なりの対応しか出来ていない。同時に子ども達が全体として減ってきているというようなことの流れもあって、そういうふうな条件的な整備というのでも対応ができてきたということです。ですから、その点、給食室の以前の状況とは少し条件的に変わってきているというふうにご理解いただきたいと思ひます。普通教室も我々の時代には無かったような、情報関係の部屋でありますとか、低学年用の図書室でありますとか、そういう分も私どもの時代も含めて最近充実してきた部分であります。それも、全体の子どもの数が増えて、空いてくる教室をどういかに子ども達に還元していくかというような施策の中で出てきた中身だろうというふうに思ひますし、そういう点からも昔の教室というイメージとは少し違うということもありますし、それぞれの45人学級が40人になるとか、そういうふうなこともありますし、若干教室数というのは昔のイメージとはちょっと違うかなというふうに思ひます。

F では、6～7クラスの教室分ぐらいだったら低学年図書室がなくなっても、テレビ室がなくなっても、北千里小学校の子どもは友達と一緒に過ごせる方を望んでいるかと思ひますので、昔と今はと言われても子ども達にとってはピンとこないと思うんです。子どもの目線にたった教育の方を進めていただきたいと思ひます。それと、学校の特色と

いいですか安全性に関して前々から申し上げていたんですけども、池田小学校周辺の事件等ありますけども、やはり北千里の方は派出所も近いですし、一旦逃げた時にすぐ守ってもらえる環境にあるんです。学校側からも出口が2カ所、北千里の坂側と保育所につながる側の2カ所ありますし、陸橋のすぐ横からも階段がおりてますし、いろんな面で何かあったとき子どもが分散して逃げたり出来ますし、実際、運動場の方で欠陥って書いてありますけれども、運動場と校舎が離れていることは私ども北千里小学校の人間が欠陥だと思ってませんし、市が欠陥だと思ってて30年間子ども達を通わしていたとしたら、それは由々しき問題だと思えますんで、これは欠陥ではなく特色と訂正していただきたいと前回も申し上げました。私のように、子どもが小学校に通っている人間は「あれっ。」と思うんですけども、引越して来られて、まだ小さな未就学児のお母さん方が見たら、「とんでもない欠陥があるんだな、陸橋が崩れるんだな。」ぐらいに、(判断を)されかねないかと、こういう北小をはなから廃校にするような文章はフェアじゃないと思うんです。これも直していただきたいっていう事と、北小の運動場の横を通る人たちの人数と青小の横を通る人数、これを調べていただいたらわかると思うんですけど、北千里駅に向かっている人数がすごく多いですし、地域の人たちが子ども達がサッカーをしたり野球をしているのを見守りながら通っています。校舎の横も「子どもの声がするな、電気がついているな。」と見守りながら通っています。保育園の方も、隣に小学校があることでみんな総合的に守りあって生きてるかと思うんで、出来ましたらバスなどもっとお金をかけて、いろんな案を出していただいて、私どもの子ども達はゲームの駒じゃないんで、「人が少なくなったから単学級になってあっちへ、もともとあっちの小学校だったからあっちへ。」みたいな言い方されたら、地域の方でも自治会の方が、北千里小学校廃校はOKみたいな文章をだしてきて、地域に配ってますんで、自治会を止めてしまおうかと思ってる方も多いで、これではもう逆に地域と子ども達の関係が疎遠になるばかりだと思います。地域、地域とおっしゃるけども、やっていただいていることって、どんどん険悪になってきてますので、そこら辺を考えていただいて、お年寄り子ども達が共有できるような何か案を出していただきたいと思います。5歳の子どもが慣れてない青山台から来ているんですけども、青山台の商業施設に行くことも私あまりないので、道も不慣れですので学校に行くまでの通学路と帰ってくる間にすごく事件が起きてるんで、遠くなればなるほど親はすごく不安に思っているんです。まして、行き慣れてないところに行くかと思うとすごく不安でなんとかしていただきたいなど、5歳の子どもがあそこまでのいろんな道を、不慣れな道に行くかと思うとすごく不安でなりません。どっちみち単学級になるんだったら、ぎりぎりまで北千里小学校の見通しのいい方の道を歩かせたいと思ってますのでよろしくお願ひします。それと、学習障害児の教室、駅前だから北千里小学校にもってきたって説明があつて、次に古江台小学校に学習障害児の教室を持っていくって話になってたのが、じゃあ青小にもっていけばいいやんという話はどうなったんでしょうか。お聞かせください。

教 通級学級について、何回かご質問をいただいております、その中に私どもがどういふふうに答弁をしてるかということについての調査で議事録も見ました。「北千里がもし仮に廃校になれば通級教室はどういふふうになるのでしょうか。」いふふうなご質問であったと思うんですけども、そのときに私どもの方が、「青山台小学校もしくは古江台小学校どちらかに、北千里で現在行われている通級教室の教室については確保していきたい。」「どちらかで確保していきたい。」いふふうな形で二回ほど、議事録でそういうやり取りがありました。その点はいふふうにお答えさせていただいていると認識しております。

F 最後に、あまり考えたくないんですけども、北小の跡地をどうされるつもりなんですか。

教 北千里小学校がもし廃校になればいふご質問だと思うんですけども、現在は何も決まっております。

F それは全然納得できない。これだけ小学校が動く案が4案も5案もあるのに、もしも北小がなくなったら、じゃあ廃校になったら、どれくらいの案でいふものが通るかという概要だけでも お聞かせいただきたいんですけども。

教 これは現在、このに案ついて地域の皆さんにご説明をしている段階ですので、それもまだ決まらないうちに、廃校をどうしようかといふふうについては、おっしゃるようなそんな話はされておられません。

F 自治会の偉いさんが、聞いたことによると、「子ども達が遊べるような施設を作りたいな。」とか、そんなことも言っているらしいんですけど、市長も何か言っているんですか。もう跡地の計画バンバンみたいに出てるんですけど、それはじゃあ北千里小学校が最悪、廃校になるとしたら、廃墟になるといふことですか。

教 いえ、いふことではなくて、仮にいふもし廃校になればいふことでお話が出来るといふれば、当然これは前から言っていますように、地域の財産ですので、この後いふふうを利用するかいふことについては、当然地域の皆さん方のご要望がありますので、それを十分出していただく中で、行政としては公的に使用する部分と地域の皆さんがご要望されること、それらを十分検討する中で将来的なものが決まってくるように思います。

F 要望、要望って全然うちの要望もあんまり聞いていただけていないので、いふものが。

教 地域の要望いふのは、自治会の方から聞いていますけど、皆さん方からいふ、「いふものにしてほしい。」とかそんなのはないでしょう、まだ。

F 立派なすごい大事な施設が建つんだったら、泣きを見てもいふって人もあるかと思うんですけども、あんまりいらぬものが建つんだったら、北千里小学校は伝統あるし、30年間もあるし、学校としてはすごいいい位置で建っているし、潰してほしくないですよ。ですから、いふ案もあるんだったら、「いふ案はない。案はない。」

っておっしゃっているけど、市長さんもなんやかんや言ってるみたいだから、はっきり何案かあるんだったら出してもらいたいし、さっきの給食の案も給食の人に聞いたわけじゃないんだったら、給食の人に出てきてもらって、あと人数はどれだけ必要なのか、施設はどれだけ必要なのか、言ってもらって、給食室改築するだけだったら子ども達はの方が絶対いいと思うんで、その分も出していただきたいなと思います、次回。

教 給食については、教育委員会の中に保健給食担当の部門がありますので、そこと十分話をする中で、お答えをさせていただきますので、我々がいい加減な数字を言っているわけではございません。

F でも、増改築したら何とかなるんですよ。

教 もちろん北千里小学校では、増築をすれば、どの部分に増築するかというのはありますけれども、増築すればということでしたら、当然そういう話もあるかと思えます。ただ、そういうことを比較、検討しているということです。

F 増築するだけでみんな来ていただけるんだったら、そっちの方がいいかなと思うんですけども、よろしくお願いします。

発言者G

G 僕は北千里小学校に通ってるGといいます。これは、北千里小学校のみんなの願いだと思って聞いてください。僕には、古江台と青山台の友達がいるんです。せっかく親しくなったのに絶対離れたくはありません。それに、あんな素晴らしい学校を離れるのも絶対嫌です。どうか潰さないでください。

Gの母 Gの母親ですけれども、こういう大きな場でマイクを持って話をするような子どもではないんですけれども、やっぱり彼は彼なりに、すごい危機感があって、なんとか北小を潰してほしくないという気持ちで、多分、今自分から僕は発言したいということで発言をしたと思うんです。ちょっとだけ補足しますけれども、事実、北小の子ども達は非常に心痛めているんですね。お母さんに泣いて、北小が潰れちゃうから何とかしてって訴える子もいるし、何とか自分達で、何とか北小を守ろうと、何かことを起こそうとしている子もいます。そういった中で、実際、あの子達はこの北小が廃校するという問題をプリント一枚で聞かされているだけで、実際、自分の耳では何も聞かされていないんですね。ですから、多少、親の意見もはいった形で、子ども達に説明しているということでは今ないんですけれども、私は是非、子ども達に、一番影響を受ける子ども達ですから、是非、子ども達の前できちんと説明をしてほしいなと思っています。今、北小っていうのは、子ども達は大好きです。でも、親から言わせると、例えば、プールの改修とかが遅かったり、トイレの改修も一番遅かったり、何か待遇的には北小は非常に今、悪い状態にあるのではないかなと思います。それでも、子ども達にとっては、「私の学校。僕達の学校。」ですから、そういう子ども達の意見を、是非受け止めてあげてほしいなと思います。うちの子がもし、北小が廃校になって古小に行くとなると、自分が

元いた学校、北小の前を通過して古小まで通わなくてはなりません。その時の子どもの気持ちを考えて、私は親として非常に心が痛みます。何とかしてあげなきゃいけないと思います。それから、ちょっと2、3あるんですけども、こういう説明会というのはまた、やっていただけるのでしょうか。前に、青山台のところでちょっと不備がありまして、皆さんにお伝えしてなかったのも、またやっていただけるようなことをさっきおっしゃっていましたがどうか。

教 今回、全戸の配布漏れがあるということですので、それを調査させていただいて、どれくらいの戸数があるのかということも把握する必要がありますので、それを調べて検討はしたいと思います。ただ、皆さん方がこういう説明会をということでございましたら、それは当然、我々は理解と協力を求める必要がありますので、それはそういう声が強ければ、それはさせていただきたいと思います。

Gの母 じゃあ、要望があればやっていただけるということですか。では次回にちょっとまた、お話したいことがありますので是非よろしくをお願いします。

発言者H氏

H 今回の案につきまして、青山台に古くから住んでいる者としましては賛成でございます。今の北千里学校を造りました時に、将来こういう問題が起こるだろうということで、問題の提示がございました。「その時には、将来、その時にはまた元にもどすんだ。」というふうなまず前提がございました、それが一点。それと、適正化から見た評価の中で、現状、21年以降に単学級の発生の可能性があるということがございますけれど、今現在、単学級が出てから11年経ちます。ですから、今大部分の子どもが単学級のままで卒業いたします。そういう現状を考えますと、やはり、これは早急をお願いしたいというふうに、これは10何年か前の時に、実は北小PTAの方に申し入れをしております。ですから決して、新しい問題ではございません。それと平成12年の時に、市民会議が行われまして、実はここにも書かれてまして、適正化の問題の時に提示がございました時に、私も実は参加しようかというふうに思ったんですが、時間の関係でこれは参加できなかったんですが、その時にいちおうこういうふうな2学級がいいんじゃないかというふうなことが出ておりました。青山台といたしましては、昔から認識した問題ですし、今の現状の11年、単学級だけで中学いってしまう子が大部分なんです。ですから、ぜひとも、そこのところ認識をいただいて、今の案を進めていただければと考えております。それと、もう一つ、廃校になるとかということについて、いろいろOBの方がいらっしゃるのか、ご意見もございましたが、今の学校教育というのは、今、学んでいる子どもとか、これから将来学ぶための学校であって、教育というサービスを受けた子ども達、OB達、もう大きくなった子ども達のために残すわけではございません。はっきり言ってこれからの子ども達のための施設です。10年、20年という一つの大きなスタンスの中で教育を考えていくべきだと思います。確かに、今、学んでいる子ども達はそういう

っていう段階では、それは普通ないですよ。もうちょっと先の話、今から第三者検討機関をおくかどうかというならわかるんですけども、「来年の春やるよ。」と言っているのに、今、それを検討する第三者機関をおくかどうかを検討してるってような段階ではないと思うんです。もし、そうであるとするならば、その予算執行を見越した上で、他の青小なり、古小なりの給食室を増設するっていう、そちらのほうが随分勇み足な話で、まあ言ったら十分検討したりする分には問題がないわけですから、さきさき進んで行っていると言われてもしょうがないことだと思うんです。それに関して、今まで市長が青山台の方の集まりで跡地に何を建てるかという問題の発言をしたりして、市議会でも問題になったと思うんですけれども、それに関して、こちらの方から PTA の代表とかが市長に面会を申し込んでも、逃げ回られてという状況なので、完全に証明化されてる状況とは思えないんです。それから、いろいろ皆さんがおっしゃっていましたように、子どもの気持ちも大切なんですけれども、例えば、私は子どもが今年 5 年生がおりますが、あと 1 年を残して古小に行くことになっても、もし、それで「この案がベストなんだ。」大多数の北小の子は悲しいかもしれないけれども、青小の子が本当に困っていて、「これをしたなら青小の子は今後とも行けるんだ。これで丸くおさまるんだ。」というふうには自信を持って説得出来ません。無駄死にというたらおかしいんですけども、自信がないっていう感じなんです。私は先ほどから、以前に紙（説明会の資料）をいただいたときにも、良い面と悪い面といろいろ書かれていて、「北小の人には良い面が全然無いじゃないか。」というふうなことを皆が言ったと思うんですが、それに答えていただいた形だと思うんですが、プラス評価とマイナス評価といろいろ書いていただいています。それを見ていたら、やっぱり、かなり恣意的なものがはたらいっているなというふうに感じたんです。マイナス評価でも、先ほど心配してらっしゃったように、通学路のことをおっしゃっていたように、給食の問題でも、何でもですけども、時代は変わりますから、私達の時代は OK だということが、今の時代 OK じゃないっていうことが多いんです。だから、通学路を見越したうえで、家を動かせるかって言ったら、それはエゴだと言われてそれはそうかもしれません。だけど、その不安がいっぱい噴出しているのに、例えば古中までの通学をどうするのか。まったく、昼間なのに人が通らないのに、ずっと歩いていかなきゃいけない。そういうのが不安だと思った人達が集まっているというのが、反発の一つかもしれないんですけども、そういうマイナス評価とか、書き方というか、それを言い出したらきりがありませんけれども、いつも思っていたのは、数合わせのために北小を潰してしまうっていうマイナス、それと子どもが悲しんでいるマイナスとかよりも、ちゃんとした説明を自分の発言したことに対して市長が（説明を）しないで逃げ回っていたり、あと、これがベストであると教育委員会の方でも自信が持てない案にも関わらず、だけれども、みんなの要望があるとかいうような、「みんなの」っていうのが、市教委の方々に関しては自治会の方がみんななんです。ところが、私達にしてみれば、もちろん PTA とか同世代の方々がみんななんです。そのみんな

の捉え方が違う。そういう曖昧な中で強行されてしまうっていうのを、子どもに見せるっていうのが、曖昧な案とかでも、とにかく力で押し切ってしまう方がいいんだっていうのを、押し切られてしまう。それで抵抗しない、それでおかしい案でも行政の人が言ったらそれはしょうがないんだっていうような、先例を見せるのが役所だと思います。

発言者 J 氏

J 私なんかこんなところで話をしたいかどうかずいぶん迷いながら順番がきました。すりガラスの向こうで話したい気分なんですけども、私の基本的な考えとしては、お二人前にお話された方（H氏）がすごく私の思いをうまく話してくれたのでその通りだと思います。まず、学校規模適正化の推進に関しては大賛成です。今日の説明会は2回目に出席したんですが、原案に関しましては、私は家ではすごくいいなあと思ったんですけど、この場で北千里の方々の切実な悩みとかを聞いていますと、「うーん、これでいいのか。」ちょっと今、クエスションな状態です。私は去年の8月に東京から青山台小の方に転校ということで、やってきましてまだ1年も経っていません。娘は2人いまして、今、4年生と2年生です。東京の方では、各学年が3クラスずつで（それぞれの学年が）100人、100人、100人というところから来まして、青山台に入ってきてまして単学級だったので、娘は転校をすることもすごく親の都合でいう感じで大反対で、泣きじゃくって、それでも引っ張り込んで来たという感じなんですけども、しかし、ここへ来てどんな学校かというと単学級で30人ちょっとのクラスなので、それこそすごくがっかりして、「なんだクラス編成も無く、お友達も少ないし」という気持ちで、「それは本当に子どもの気持ちはその通りだな。」と思って、私もちょっと娘がかわいそうだなという気持ちでいました。だから、せめて単学級じゃなくて、複数学級になって、たくさんのお友達と子どもさん方でもまれて育ってほしいなという気持ちです。すごく、そうやって泣きじゃくって悩んできた子どもなんですけども、もう1ヵ月も経つとすっかり大阪弁もすごく上手になって、お友達もたくさん連れてきて、すごく楽しんで学校行っています。先ほどから、千里ニュータウンはこれから少子化を解消するために、「政策的にこうしてほしい。」とかっておっしゃっていますけども、私達にはそんな時間はなくて、来年ですか、予定でこれが実施させられるというのを聞いたときにはすごく喜びました。北千里小が来てほしいとか、そういうことまで考えたのではなく、単に本当に適正化に早くなってほしい、その気持ちでいっぱいです。今、脳年齢とかすごく取り上げられていて、盛んに言っていますけども、教育に詳しい方の話では小学校12歳までが、脳を形成するときにすごく刺激が必要だというので、本当にそんな10何年とか、そんなに待たなくて、本当に早くこれが実現してほしいという気持ちが、青山台小に通っている娘の母親として本当の気持ちです。それから、先ほども給食室の改修をすればいいとかって、それで予算がどうこうと言っていますけど、そんな予算とか本当に関係ないことです。本当に子どもが刺激を受けられる状態にしてほしいというその

気持ちでいっぱいです。それから、PTA、OBの方や、廃校になるということもすごく残念なことなのかもしれませんが、先ほど二人前の方（H氏）がおっしゃられたように、今、学んでいる子ども達、それから、これから学習する子ども達のための学校の施設として、それを大前提で考えていただいて、だからといってどうすればいいか具体案は私もここでは言えませんけども、お互いが現状維持が一番楽かもしれないんですけども、やっぱり子どもの事を考えて、お互いが少しでも歩みよれるような、それぐらいの気持ちで考えていただければありがたいなと思っています。ちょっと、説明があれだったんですけど、もしこれが実現して北千里小から、「実はとても素敵な男の子がやってきたんだよ。」とか、「青山台小に行ったら、またこんな素敵なお友達もいたし、こんなかわいい子もいたんだよ。」とか、そういう子どもさんのいい声も聞けるんじゃないかなというぐらいの展望を持って、皆さんにもう一度考えていただきたいと思いました。以上です。

発言者K氏

K 今朝、娘は「北小、とりあえず嫌い。」と、「誰があそこを潰すの。」という話で簡単に教育委員会から出た話をしました。今、娘は小4と小1です。非常に気の弱い子でして、古江台小学校に行って人数が増えることによって、逆にいろんなケンカが起こったりとか、すごく不安がっています。それは大丈夫だと話しているんですけども、非常に子どもの精神的な不安定さって言うんですか、顕著になってきています。何故こういう形で、とにかく先ほどの方もおっしゃっていましたが、非常に少子化で単学級については問題だと私個人で思っていますし、今、もし計画が実施されると、少人数である青山台小学校に行かれる方、「先ほどのお子さんと同じような気持ちになるのかな。」という思いもあります。ずっと考えていたんですけども、この問題は前からわかっていたんですよね。なぜ今更やるんですか。こうなる前に手を打って、5年前ぐらいに手を打ってやっていたら地域のいさかいもなく、子ども達がこんなに不安になることもなく、やっぱり違いますもん。あなた方の怠惰でしょ。私は小学校、中学校といじめを受けました。その時に助けてくれたのは先生です。先生ってすごい仕事だなと思いました。尊敬もしました。今、親になって、こういうことになって、先生方は教育委員会の言うことだからということで、自分がいても同じだと。あなた方はあなた方で子どものことを考えてと言いながら、大人の都合でしかものを考えていない。私は今まで学校の先生は大変だと思っています。今でも大変だと思っています。けれども、こういう環境の中で本当に子どもに対して教育できるのか、自分なら出来るんっちゃ。本当に思います。今回のことで私の子ども達は、教師になりたいというそういう夢はなくなりました。子ども達の気持ちを踏みにじるのが教育委員会の仕事なんですか。答えは別にありません。そこをよく考えてください。以上です。

発言者L氏

L 2点、質問があります。まず、これからの決定プロセスはどのように進めていくのか、それを具体的に教えていただきたい。先ほどの意見を聞いて教育委員会で検討する。いつ、どこで、どういう決定をされるのか、そのプロセスを教えていただきたいのと、これから19年度実施を考えられているということで、そのソフトとハードの整備をどういうスケジュールで行って行くか、その2点を教えていただけますか。

教 これから決定のプロセスというふうにお答えをさせていただきます。これは以前にも、今後のスケジュールをどのように考えているかという質問があって、それにお答えしているわけですが、19年4月を目標ということでこの案を提示させていただいております。19年4月に実施をするためには、来年の1月から2月にかけて就学通知を出す必要があります。その時に、それぞれの子どもさんがどこの学校へ行くかということについては、この就学通知をもって決定をされます。その就学通知を出すためには、我々の考えでは、今年の12月議会において、学校の設置条例を改正をしていただきたい。これは当然、議会の承認がいりますので提案をさせていただいて、議会の承認を得たいというふうに考えております。こういう形で順番にさかのぼっていきますと、議会提案をするためには、教育委員会だけの決定ではなくて、市長部局の方で決定をしていただく必要があります。秋ぐらいに教育委員会として、この案について判断をしてまいりたいというふうに考えています。

L 秋ぐらいに教育委員会として決定したいということですが、それ以前のプロセスですが、どういう、何をもって決定するのか、その辺はどうなんですか。

教 こういう形でいろんなご意見をいただいておりますので、そういう意見をふまえて総合的に判断してまいりたいと、教育委員会として判断してまいりたいというふうに考えています。

L あと、こういう場というのは今の計画では何回ぐらい持たれる予定ですか。

教 具体的に何回というのは持っておりませんが、当然、皆さん方からご要望があれば、そういう会を設けさせていただきますし、それぞれのPTAと日程調整をしながら、説明会は秋までには開催していきたいというふうに思っています。

L そうしたら、決定されるまでに、何回というか、あとどういう場でまだ説明していかなくてこれから説明していかなければならないのか、お考えですか。

教 具体的には、何回とかそんなことは何も想定はしていませんので、だから、それぞれこういう意見交換とかいろいろする場の中で、いろんな提案がございましたら、当然それは検討する必要がありますし、当然皆さん方は反対だという意見になりますので、そういうことについては、それぞれこういう意見があるというようなことを、十分教育委員会の中で議論をする中で、教育委員会として決定をするということです。

L 例えば、今後一切、PTAからも地域からも、「説明してくれ。」ということが出てこなければ、しないかもしれないのですか。

教 我々とするれば、説明したい、説明をして理解を得たいというのが思いですので、だから我々としてはそういう説明会は開催させていただきたいというふうに思いますけども、相手のある話ですので「受けたくない。」というふうに、おっしゃられましたらそれはもう仕方がないと思います。

L 「受けたくない。」ということじゃなくて、提案されることはあるんですか。

教 もちろん、これはお考えですので、例えば「いついつぐらいにしようか。」というのは、今までも日程調整をさせていただいていますので、だからそういう形でやりたいというふうに思いますけども。

L あと、その説明会というか、いろいろ意見があると思うんですけど、それをどのよう
に反映していただけたのかなど。

教 だから、我々としましてはいろんなご意見をいただいていますので、それが新たな提案なのか、単なる、その要するに、我々に対する批判なのか、その辺をいろいろ分析をする中で判断をして参りたいと思います。

L じゃあ、提案がされれば当然、この案は変わる可能性はあるということですよ。

教 即答は出来ませんが、これはあくまでも案の段階ですので、我々としてはこの案に
いろんな考え方を加えるのかどうか、その辺は検討させていただくつもりでございます。

L そしたら、具体的に先ほど「中学校の選択制はどうなるのか。」という意見が出ました
よね。そのことについては、まだ検討していただけたということですよ。

教 中学校の選択制については、教育委員会内部でもこの案を作るときにも議論をして
いるわけなんです。それで、その選択制を認めるかどうかということについて、波及効果
というんですか、他の中学校にも影響する部分がありますので、だからその辺は慎重に
判断する必要がありますけれども、この選択制について、非常に北千里小学校だけじゃ
なくて、この地域が非常に強いというそういうものがございましたら、それは我々とし
てもやはりその部分について検討しないといけないだろうというふうには思います。

L じゃあ、先ほど意見が一個出たくらいじゃ、検討しないということですね。

教 いや、そういう意見があったということについては、当然報告もしますので、何もし
ないということではないんですけども、それが総意としてどうなのかとか、その辺が非
常に重要なところですので、だから多くの方がそういうことを望んでおられるとか、それ
が例えば、要望書のような形で出てくるとか、そういうことがやっぱりあるのかどうか、
その辺を見極める必要がありますので、単にお一人だけということでしたら、それは非
常に難しいことだというふうに思います。

L その辺を総意として汲み上げるのであれば、どういうふうなテーマがよろしいですか。
私達はみんな意見がばらばらで、住んでいるところもあると思うんです。100人いて
100人ともみんな納得出来るところもあるし、5人くらいは OK などところもあるだろ
うし、他の人の意見を聞いたら「それはもっともだな。」ということもあるだろうし、意
見を上げようがないじゃないですか、個人の意見を。

教 だから、こういう全体の話し合いは、やはり「いろんな意見があるんだ。」ということ
で、「お互いにこういう考え方もあるんだ。」ということがお互いにわかる場だと思うん
です。なかなかこういう場で物事を詰めていくというのは非常にたくさんおられますの
で、なかなか意見がまとまるかどうかということについては、非常に時間がかかると思
います。だから、我々としてはこれまでもいろいろお話させていただいたように、例え
ばその PTA の役員さんであるとか、地域の役員さんであるとか、いろんな意見を代表さ
れる方を中心に話をして行って、それを全体に返すほうが時間のロスがないのではない
かなと思うんです。だから、やり方はいろいろありますので、それはご相談させていた
だくつもりです。

L 要は、私が言いたいのは、代替案を出されていますよね。前回の案から代替案が出来
るまでの間に、それ以降もこれは一回しか案が変わったことないんですよね。我々の要
望は一体どこで、どう扱われているか全然わからないんです。結局聞いているけど、聞
いただけで終わっている。じゃあ、何だったの我々がやってきたことはということにな
る。その辺のちゃんと意見を真摯に受け止めてといつも言われるんだけど、じゃあどう
いう処理を、どういう検討をその意見に対してしたかというプロセスが全然見えないの
で、結構みんな不満を持っていると思う。だから、その辺をきっちり報告していただき
たいというのがあります。それで、案についてはそういうふうに意見を取り入れて、適
時変えていただきたい。違う案を提案していただきたいということを行っていただきたい。

教 いろんな意見を皆さんお持ちでして、それぞれ意見をおっしゃるのですが、我々と
してはそれがまとまった意見なのかどうかというのが、なかなか把握が非常に難しい部
分がございます。それで、最初の原案から代替案に至ったということの中には、やはり
PTA のほうから決議文を上げられて、その決議文の中に子ども達を分断しないでほしい
という要望が、これはまとまってございますので、だから、その行為についてどう対応
できるかということで、代替案を出させていただいたつもりなんですけれども。だから、
我々としても、いろんな意見を聞く中で、やはりお互いにどの辺で意見の合意があるの
か、その辺はやはり十分見極めながら話を進めたいというふうに思っていますので、そ
ちらの方から見れば、もちろんプロセスが見えないということかもわかりませんが、出
来るだけ意見が集約する方向で、お互いにやはりこれは努力する必要があるんで
はないかなというふうに思います。

L そうしたら、意見については PTA の総意で、例えば、総会であるとか、アンケートで
あるとか、そういう数字が出てくれば、そういうふうにみなしていただけるということ
でよろしいですか。

教 もちろんそういうことです。

L わかりました。あと、先ほど、これから 19 年度に向けてのソフトとハードの整備の
方をお聞かせ願いたいんですが。

教 ハード整備の方は、(資料の) 4 ページのところにも書いてありますけれども、教室等

の施設の整備ということで、それぞれの受け入れ予定の青山台と古江台小学校の普通教室と給食施設、これについての受け入れの最低限の改修という中身ですけれども、それをやっていきたいと。それで、既に設計業務等につきましても、すでに準備に入っているということです。工事そのものは主に中心としましては、夏休み中ということがメインになってまいりますので、その時に執行していきたいというふうに考えております。

L 今、設計についてはもう既に進めているということですが、設計の内容を実際、受け入れ校に今なっています青山台と古江台の小学校の方はご存知なんですか、PTA を含めて。

教 直接にこの問題について、それぞれ受け入れ校の PTA の皆さんとはお話ししておりません。ただ、一定いろいろなお話の中で、教育委員会として考えていることについての情報はお持ちだとは思いますが。正式に PTA を通じて、こういう形で執行するということについてはお話ししておりません。

L やはり、こういうことを受け入れ校である古小、青小についても、情報を流していかないと、「何でこんなもんが出来てんねん。」となりますよ、多分。ならないんですかね。だから、きちんとステップステップというか、確認は必要なんで、今後もそういう確認は全然無しで進めていこうとしていらっしゃるのか、するつもりは無いのかというのを聞かせていただきたい。

教 設計業務に今はいっております、この間北千里の PTA の皆さん方と一緒にそれぞれ受け入れ校を見学していただきましたが、具体の中身については今は設計段階だということで、それぞれの部屋のどういうふうな改修が必要かということがまとまれば、一定それぞれの受け入れ校の PTA の方々ともお話しは必要であるというふうに思ってます。

L 設計が出来てしまうと、なかなか変更しにくいじゃないですか。要望としてやっぱりあげていかないと駄目じゃないじゃないですか。おかしくないのかなと思うんですけど。

教 一定そういう要望等も当然出てくるわけですけれども、今我々が考えているのは基本的に受け入れのための最低の準備として、何が必要かというレベルの話ですので、とりあえずそれぞれ（青小・古小）にお話するにしましても、その材料が出てまいりましたら具体的に「こういうふうな改修を。」という話が出た中で、それからの手直しというか、難しい状況にはなってまいりますけれども、今回予算化をお願いをしておりますのは、最低限の受け入れ態勢、受け入れで何が必要かというレベルの話ですので、その辺についてはご理解いただけるんじゃないかというふうに思います。

L 出来るだけ早い段階で理解を取っていただけるようによろしくお願ひします。

会場より 初めてそんな設計が取られていると聞いたんですけど、じゃあ北小が青小を受け入れる設計書は。何故、はなから北小を潰してよそに分断する設計書とか水面下でこそそそ作っているんですか。うちらはまだ北小に青小の人を迎える案も生きていって、どっかで思ってるんですけど。もう完全に潰す気なんですか。決定ですか。じゃあ何でここで話し合いがあるの。

教 決定ではないんですけれども、19年4月ということで我々がそういう目標を立てて、お話をさせていただいていますので、当然19年4月にもし仮にそれが実施となれば当然受け入れ態勢というのは、我々としてはその受け入れ準備というのはやっていく必要があるだろうという中身の工事です。

会場より 来年、実施というのはどこから根拠が来て、そんないきなり計画をバンバン立てているんですか。

教 実施したならばということでの、あくまで今我々がお話をさせていただいている話の裏付けとして、必要となってくる最低限の教室の整備というふうに考えております。

会場より 2校を改修するより1校を改修したほうがお金が掛らないし、市の財政も圧迫しないと思うんですけど、何で北小に受け入れるっていうか、全然外れているんですか。

教 ですから、そういう比較対象でどうこうというお話で我々はやっているのではなく、私どもがお話をさせていただいている19年4月を、もし仮に実施すれば、当然受け入れ態勢として必要になってきますので、この実施計画案の中にも書いておりますように、受け入れのための必要な最低整備だけはしておく必要があるということで、当然これはやっていく必要があるだろうというふうに判断してやっております。

L そしたら、19年度4月実施でなくて、例えばこの案が変われば使った税金は無駄になるということですよ。

教 当然、我々は無駄にならないようにという立場で、やはり。

会場より じゃあ、決定じゃないの。

教 いや、決定じゃないですよ。私達はそういうことで努力していると言っているんです。当然、青山台小学校も古江台小学校も、この間見ていただいたように、非常に今まで手を入れている箇所も少ないということで、もし仮に皆さん方が来られなかったとしても、決して青山台と古江台にとっては無駄にはなっていないのではないかなど。そういう活用をしていただきたいというふうに私達は願っております。基本的には、19年4月の我々が準備しているこのことについては無駄にならないように私どもは当然努力はして行きたい。

会場より 逆に、600食作れる部屋があんねや。何を改修するの。給食室とか。何ですか。

教 これは、広さ的には青山台は600食の対応があるということで、実際に炊く釜であるとか、おかずを作る釜については、600食対応が出来てないということなんです。

会場より 釜って釜買ってくるだけですよ。

教 いや、釜を買ってきてそれで終わりということではなく、その釜を設置するための基盤を整備したり、水道を引いたりします。全体として青山台も古江台も含めて教室、それから給食関係の整備をします。

会場より 説明がないからわかりません。寝入りに水です、はっきり言って。

L そういうことを水面下で着々とやるっていうことにみんな納得いかないんじゃないん

ですか。そういう体制がまずおかしい。だって、何も決まってないのに、「案です、案です。」って言いながら、そんな事してる方がおかしいでしょ。

会場より どっちみち3年経って単学級になるんでしょ。じゃあ、あれだけ「単学級は嫌や。嫌や。」というところに、青山台に住んでいる人らは5歳の子どもを突っ込まないとあかんのですよ。3年経ったらまた単学級になって「うちらも嫌や。嫌や。」ってどこに行けばいいんですか。そのために、何でまたいきなり水面下で設計出しているんですか。

会場より もう、入札終わったんやろ。

教 今の状況は、設計段階の状態ですので、当然設計をして必要なところを改修していくという工事になってくるということで、水面下ということなんですけども、決してそういうことを説明をすることについて拒む理由も何もありませんし、当然私どもは予算としては3月の議会にお願いをして予算化をしたものですので、決して水面下でこそこそやっているということではありません。

会場より 説明してないんですからね。

会場より 初めて聞いた、それも言ってくれなかったら、今日聞かないで帰るとこだったし、まだうちらは頑張ったら残してもらえるってずっと思ってたし、たった3年で単学級になるところに子どもを行かせるなんて、ほんまにまだ信じたくないし。他に決まっていることがあったら言ってくださいよ。

L この案で変わると、まだ変わる可能性もあるとおっしゃっているのに、そういうことを進めるのは絶対におかしいと思うんですけれども。

会場より (市教委の) 皆さん吹田市の市民の方ですか。どこにお住まいなんですか。ニュータウンの活性化とか関係ないとか知らないとか、その税金の使い方をみて、すみません皆さんどちらにお住まいの方なんでしょうね。

教 それは関係のない話です。

会場より でも、やっぱりその自分のお金だったらこんな無駄遣いをしないと思うんですけど、学校に関わることでも、だから、自分が吹田市にいたりしたら、もっと考えると思うんですよ。ニュータウンに住んでいたりしたら。よそ事だと思うから。

教 逆に、だから吹田市に住んでいたら認めるということでもないですね。

会場より じゃないけども、お金の使い方がね。

教 だから、住んでる地域は関係ないですね。

会場より せやけど、もっと親身になるんちゃうん。

教 私は親身ですよ。

会場より ほんなら、もうちょっと考えて一な。

会場より 給食の設備は、まあいちおう古小と青小整のうわけでしょ。この案がなくなったら、その設備はそのまま使うから無駄にならんねや言うのやったら、北小はまた遅れてしまいますやん。

発言者M氏

M いつもPTAの話で、今日は地域としてちょっと何点か質問させてもらいたいと思います。まず、今回統廃合の案で来られてるわけなんですけども、竹見の場合は書いていますように、「竹見台小学校と南竹見台小学校を統合して千里たけみ小学校としました。」書き方の問題なのかもしれないですけども、今回の「青山台小学校に統合し、古江台小学校に統合し」というのは、統合というんじゃなくて吸収という意味なんですか。その辺について伺いたいんですが。例えば、書いている中身で「北千里小学校を古江台小学校に統合します。」って書いてありますね。でも、竹見台と南竹見台は「と」と書いてあるので、統合みたいに見えるんですけども、これは北千里小学校は吸収されるというふうな意味なんですかね。

教 吸収という意味が、何かに飲み込まれるというような、そういう意味合いを持った言葉ではないかと思うんですけども、決してそうではなく、2つの学校が1つの、別のところに新たに学校が建つというようなことならば、理解しやすいかもわかりませんが、その統合という言葉で表現はしておりますけれども、その実態から言うと、おっしゃったような吸収というイメージになるかもわかりませんが、我々は決して吸収というふうなイメージではとらまえていませんので。

M そうすると、対等の合併みたいな形というのであれば、他の市の例とかでいきますと、やはり、書き方として、まずこの書き方というのは、非常に北千里小学校の皆さんというのか、地域の皆さんに、非常にいわゆる悪いというか、下に見られているような。というのは、要するに吸収されているようにとられると。他の市の場合は、確かに、「どことどことを統合します。」と。そして新たに学校を造ったり、新しい学校としてやりたい、元どことこの小学校でやりますとか。やっぱりこういう書き方次第でもだいぶ違って来るかなと思うんですよ。今回、対等の統合っていうのであれば、当然お互いの小学校を閉校して新しい学校を造るんだっていう、そういう形だと思うんです。そういう意識でよろしいですか。

教 私どもの気持ちは、今、おっしゃいましたような方の気持ちなんですけども、その点について、まだ我々内部のほうでも十分、協議していませんので、ちょっとこのことについては少しお時間をいただきたいと思います。

M 本来おかしいですね。対等だって言うのであれば、当然、お互い両方がなくなって、また新しく建つ形が当然だと思いますけれども、ちょっとそれは解答が出ないということで終わりますけれども、よろしく願いいたします。それから、地域の話で古江台小と青山台小と、私はたまたまこの間見せてもらいましたけれども、安全面の話でいきますと、周りに人が少ないとかいう話も先ほどありましたけれども、古江台小なんかは低いフェンス一個ですぐに子どもの教室まで行けるような形に見受けられたんですけども、その点、北千里小学校なんかは周りに高いところに建っている。それで周りから入りくいというような状況から見ると、かなり安全面で青山台、古江台、北千里とそのレベル

が違うんじゃないのかなと思われるんですけども、このあたりはどのようにお考えなのかお聞かせ願いたい。特に、古江台の方は教室が端っこの方に行くと、フェンスは低いものしかなかったように思えるんですけども。これは、私どもの言うことではなく、本当は古江台のPTAが出さなければいけないのかもわかりませんが、まあ今日は地域についてなので、ちょっとご質問させていただいたんですけども、いかがでしょうか。

教 今回、私どもが予算化をして進めようとしている整備については、基本的には最低限度の整備ということで、確かに今おっしゃったような面での整備についても必要なのかもわかりません。ただ、これは統合する、統合しないの前の段階でそれぞれの学校がもっているそういう物理的な条件で、安全面がどうかというような事も考えていく必要がありますし、それぞれ既にそういう要望が学校を通じてPTAとしての総意としてまとまっている場合もありますし、今の段階では、私どもは最低限度ということで、今後そういう情報も受け入れながら、新たな問題といいたいでしょうか、そういった点から検討はしていきたいというふうに思います。

M 仮に行く北千里の子ども達が、古江台とか青山台に別れていくというようなことになると、当然そういったところの整備っていうのは、やるべき問題だと思っていますので、PTAからの要望が出たとか、そういうわけじゃないと思うんですね。ちょっとそれは、今もそれは答えはでないと思いますので、ちょっとまた考えていただきたいと思いますし、当然PTAに対してもそういう情報は、そういう問題があるっていうことを今日言いましたから、教育委員会としてもちゃんと周知するべきだというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それからもう一つですが、先ほど青山台のPTAの方のお話がされまして、よく頑張りを持ったなあとは私は正直思っているんですけども、地域とかPTAとかいうのがあって、それぞれどういう意見を持っているのかというので、今回行政側が考えている話をちょっとされているんですけども、この地域の意見っていうのは、地域の総意っていうのはどういう形でとられるのかが今だによくわからないんですよ。ずっと自治会、自治会というような話をされていますけども、自治会にはいつておられる方っていうのは青山に関しては半分ぐらいしかないんです。それで、古江の方はどれくらいかちょっとわからないんですけども、その自治会の話の聞いただけで、本当にそのまま総意でいいのかどうかっていうのが非常に私は疑問に思っております。今回こういう説明会をした中で、どういう意見が出たかって皆さんわかると思うんですけども、地域の説明会で出たっていうのは、それは当然、地域の総意に近いものだと考えられるというふうに思います。それで先ほど、ちょっと話戻りますけども、青山台小学校の父兄の方、2人が話されて、「是非とも今1学級で困っているんだ。」と「なんとか2学級にしてほしい。」というような話を、「早くやってほしい。」というような話をされました。それは、検討委員会でも出た話の中で、確かに青山台の話はなんとか考えるべきだというふうに言われていますので、私自身は個人的にはその通りだと思っています。ただ、本当にこの2学級をなんとかし

たいというふうな話であれば、もっとみんなが納得する方法、さっきの「第1案が、原案が一番いいんです。」というような形で言われていますけども、もっと早く進めるのであれば、みんなが納得する案を進めるべきじゃないのかなというふうに思います。本当に、今市民会議の話とかいろいろありますけども、北千里小学校のPTAが本当にどれがいいのかとか、いろいろ意見はあるとは思いますが、そうしたら一番早く始められるのはどれなのか。今、原案もってこられていますが、原案はこうやってもめてますよね、非常に。他の案だったらもっとすんなりいくのもあるんじゃないかと。確かにいろんな評価されていますけども早く出来るというような観点で調査するとどうなんですかね。ちょっとそのあたりをお伺いしたいんですけども。

教 今、我々としては教育環境を良くしたいということの中で、それぞれの案を考えてきたわけですが、M氏は違う発想で、どれが早く実現できるか、そういう観点から検討したかどうかということだと思うんですけども、当然いろんな意見はそれなりに聞いてきてるわけですね。この4案に対しても、それぞれ北千里のPTA以外にもそれぞれのPTAであるとか、地域であるとか、例えば、藤白台とかいろんなご意見をいろんな方法で聞いているわけです。M氏は他の方法がもっと早いんじゃないかというふうにおっしゃっていますけども、私の印象では、例えばそういうことは難しいんじゃないかなというふうに思います。ただ、それは印象ですので、具体的にどういうふうに比較してとかいうのはお答えできませんけども、他の地域の方といろいろ話をする中では、非常に難しいというふうに思います。

M 多分、この中で一番ごねているという言い方は悪いかもしれませんが、北千里小学校のPTAというのは、ある意味、被害者というふうに思っています。そこをやはりまず納得させて前へ進めるっていうのが、一番早いんじゃないんですか。当然、周りは、彼らはやってくれたら、自分ら影響ないっていうのは変ですけども、利害関係が利益分ばかり、プラスばかり、マイナス部分があるところが納得するような話をもっていくのが一番早いと思うんですけども、いかがですかね。

教 他の案にしましても、当然この原案というのは北千里小学校がなくなるということですので、だから、皆さん方が非常に反発されているのはよくわかるわけですが、例えば、そしたら他の案にすれば、他のところが逆に言えば当事者になるわけですよね。例えば、青山台小学校を北千里小学校に統合するという場合は、青山台小学校が当事者になりますし、藤白台の校区変更になりましたら、当然藤白台が当事者になってきますので、そしたら、それぞれがやはりそれぞれのお考えがありますので、「早い。早い。」というようなことでもって判断はしておりません。

M 先ほど、青山台小学校を2学級にしてほしいというふうな話しかされませんでした。それが、一番の要望じゃないんですか。そうすると、それを満たすためにやるわけなんですけれども、でもこの案は1学級になるところも出てくると。そもそも、おかしい適正規模、適正化なんですよ。それを進めているっていうのも問題があるとしても、青山台の

PTA さんの本当に望むところって何なんですか。ちょっとその辺がよくわからなかったんですけど。先ほど、ご意見をお聞かせいただいたときには、「1学級は困っているんだと、だから2学級に早く何とかしてください。」としか、私は聞き取れませんでしたけども、他にもまだなにか要望されていると思われるんですか。

教 今回の適正化を進めるにあたりまして、一つはもちろん青山台小学校の全学年単学級になってしまうのを、なんとか解消したいということが一点と、それから北千里小学校がおかれている校区と住区の分断がございますので、この部分を解消したいというのが教育委員会の願い、それが目標です。

M ちょっとこのまま言い合いしても今までも平行線がよくあるので、もう終わりたいと思いますけども、ちょっと見方を変えるっていうのも一つあると思うんです。このまま、これを含めて強引にいく方法も、行政側としては手法としてはあると思います。ただ、今PTA同士、それからPTA、地域、本当にうまくいけているのかっていうのも、決してそうじゃないと。その原因を作っているというのは、市教委だということをよく認識していただきたいということで、よろしくをお願いします。

発言者N氏

N 平成21年度以降、青山台小学校に北千里小学校が統廃合になって、青山台小学校へ少年、子ども達が移ることになったとしても、平成21年度以降の原案でいうと、学級数が単学級が生まれてくるということで、そしたら、青山台小学校の子どもさんが単学級で今までいろいろ困ってこられたということで、不便にあるって聞いたんですけど、そしたら21年度以降の単学級が発生した場合についての対応っていうのは、どのように考えておられるのかっていうのをお聞きしたいのと、それと、私は青山台1丁目で自治会員としてずっと居ましたけれども、地域から青山台小学校が単学級で困っているのという要望が出たっていうのは今回の問題で初耳でした。それで、単学級を解消するために、二つの少人数学級に分けられないものかっていうのが話に出ただけけれども、聞き入れてもらえなかったというのも聞いたこともあるんです。毎年、いきいき署名といわれている署名が市民運動で出されていると思うんですが、私も参加したことがあります。1学級30人以下の少人数学級制を私はいいと思っているんです。例えば10人、15人の少人数学級で何か弊害があるのかとか、単学級でずっと少人数っていうことで何か弊害があるのかちょっとわからないんですけども、大きな人数になると先生や親って子どもの状態を把握しにくくなるんじゃないかと思います。イジメなんかも、単学級だといじめが起きた場合、クラス替えが出来ないので、人間関係として困ると聞きましたけれども、大きな人数になるとかえっていじめっていうのは大人目から見て潜在化してしまっ、大人が把握できなくなるということではないですかね。そしたら、大人目から見て、把握できないという状況になって、実はみんな潜在化していくんじゃないかなと思います。少人数学級に何がデメリットがあるのか私にはよくわからないんですけども、青山台小学校の今の現状、

単学級に不安があるのであれば、各クラスを少人数に分けてあげて、そしたら、先生の数も増えますし、青山台小学校の担任もつけやすい状態になるんじゃないかなと思うんです。そうすると、先生の数を増やすだけで、単学級の解消が来年度からでも実施出来るんじゃないかなと思うんですけど、その方が早いということはないのかなと私は単純に思っています。その21年度以降単学級が発生した場合はどうなるのかということと、それと、子ども達の40人学級にこだわらずに、柔軟にそういうことで困っておられるのであれば、すぐさま単学級を解消してあげるというふうな手立てを出来ないかなということをお教えさせていただきたいんですけども。

教 単学級のことで、今提案させていただいている部分が21年以降、11学級になってしまうそのことについて、それは適正化ではないというような意見は以前からもよくお聞きをしております。我々、今現在、青山台小学校が全学年単学級になってしまう、その可能性がありますので、その部分は何とかして解消しなければいけないだろうというふうに思っております。その1学年1学級ですので、6クラスが仮に今度統合された場合に11クラスになる可能性があるわけですけども、それは今の現況よりも、もっとましな状態だろうと。ただし、単学級が生じてしまいますので、その部分について百点満点ではないというのは、それはご指摘いただいているとおりですし、私達もそういうふうには思っています。ただ、これはお約束はなかなか非常に難しい事なんですけれども、全学年の単学級について、市教委で何とか出来るということではないんですけども、例えば、全学年で1クラスだけ単学級という場合については、それなりの対応策というのが、それはありますので、だから確かに21年度以降に1クラスのところが生じるわけですけども、その解消策がまったくないということではありませんので、そのことについて、どうしても解消してほしいという声がありましたら、それは大阪府の方に相談する必要がありますけども、その分の解消はお約束出来ませんが、出来るというふうに思います。

教 今の話に関連してなんですけども、教員の方は府の教育委員会が配置をして、人数を決めていきますので、市単独で何人かということを決める事が出来ないということがあります。ただ、少人数加配であるとか、児童生徒支援加配という、加配人数っていうものを府が持っておりますので、その加配人数について要望していく中で、仮にそれが通りましたら、一つの単学級でありましたら、それが解消するというような方向で考えていくのは出来なくもない。ただ、全部6クラス全部その加配人数でという話はそういう枠もありませんし、まあ不可能だと思います。

会場より 市で独自で予算あげられないんですか。

教 全国的にいろいろと、そういうことで市単費で持っておられるところがありますけども、吹田市の場合は低学年補助とか特殊支援とかっていう形はありますけども、担任をもてるような人間を市単独で取って配置するというようなシステムにはなっておりません。またそうしますと、この学校だけではなくて「全市、30人学級で吹田市はいくん

だ。」というような方向に、そういうことで予算も取り、そういうことでいきましたらこういう問題も解決していくかと思うんですけども、まあそういう方向には今いってないということです。

会場より 「許容範囲以内の学校については、特色すべき教育をする。」って書いてあるけど、意見書の内容に。先生の数を増やして特色ある教育をやったらいいとちゃうん。あなた方が出している「学校規模の適正化を進めます」っていう根拠にしている意見書の内容でありますやんか。「7学級から11学級の学校で特筆すべき教育が期待できる場合」、それはこのままでいくということになってますやん。

発言者〇氏

〇 この間の説明会があったときに、家に帰って子どもに言ったときに、教育委員会は北千里小学校が適正化になるっていうけれども、「もし学校が変わったときに1クラスの人数は何人になるのかっていうことを、もう一回聞いてきてくれ。」って言われたんですね。だから、今は古江台ですけども、今の5年生が6年生になったときに、1クラスの人数っていうのは何人になるんでしょうか。単純に古江台の子が古江台小学校にいて、青山台地区の子が青山台小学校いった場合の1学級の人数は何人になるんでしょうか。娘が聞いてきてくれって言うんです。それだけ子どもにとってこの問題はすごく切実な問題なんですよ。それと学校が統廃合になってから、子ども達のカウンセリングするために、人を配置するとおっしゃっていたけれども、この問題が出てから北千里小学校の子ども達はすごく揺れているし、青山台小学校の子にしても、古江台小学校の子にしても、多分、心は揺れていると思うんです。だから、今の時点で子ども達のカウンセラーをしてくれる人を北千里小学校に配置をしてもらって、今の子ども達の気持ちを聞いてくれる人を親として求めるんですけども、それは可能なんでしょうか。うちの娘は、今とにかく教育委員会の人とか、学校の先生が信じられないんですよ。このまま統合されて、6年生になったときに不登校になったときってどうなるんでしょうね。急速にことを行ってしまって、子ども達のことを考えずに。それと、ちょっとばらばらなんですけども、教育委員会の方はいろんなところでいろんな方の意見を聞いているっていうんですけども、私が古江台小学校のPTAとか、青山台小学校のPTAに聞いたら別に学校はこのままでいいって言っているんですね。「来たかったら来てもいいよ。」って言って。3校の保護者を集めての合同の説明会とかいうか、意見交換っていうんですか、そういうのもっとやられるんでしょうかね。先ほど、青山台小学校の方がおっしゃったすごく勇気のある方だと思うんですけども、保護者の方の意見が聞こえてこない。だからそういう中で、本当にどう思っているのかわからないから、子どもを預けて、分かれたときにすごく不安なんですね。保護者がどう思っているのか。「別に来てほしくなかったけれども市教委が決めたことだから。」って言われたら困るし、そのあたりもその3校の保護者の集まりっていうんですか、もってもらえることは可能なんでしょうか。それと、

さっきM氏がその学校の統廃合とか、廃校とか、難しいことをおっしゃって、私が単純に聞きたいのは、もしこの案が実施されたときに名前を変えて、新たな学校として2校を第1期生として、名前を変えて新しい学校にしてくれるのかどうかなんですけれども。さっき言ったように、統廃合で北千里小学校の子だけが、自分達の気持ちで学校が下に見られてる。だから、できればよその学校が全部しているように、私は個人的に学校を変えて、名前を変えて、一から新しい学校としてスタートしてほしい。それだけです。

教 いくつかありましたが、もし仮にこの案が実施されたら、古江台小学校の今、5年生が来年19年4月に6年生になったらということですが、今私どもが推定しております、古江台小は幅がありますけれども、少ない方で6年生が2クラスの57名、多い方で、原案でいきますと3クラスの100名、6年生です。

○ 1クラスは何人ですか。今、北千里小学校は大体1クラス30人できているんですけれども。

教 ですから、3クラスが100人ですので、1クラスが33名ぐらいですかね。幅がありますので。

○ 大体、他の学年も30名ぐらいなんですか。

教 そうですね。だいたいそういうのが多いですね。そのぐらいになりますね。古江台でいきましたら、19年4月1日で行きますと、1年生が104名の3クラス、2年生が129名の4クラス、3年生が115名の3クラス。幅がありますので、古江台の方は。古江台3丁目の方が青小を選択されるケースもありますので、幅がありますけれども。

○ そうすると人数がもっと増えるんですか。

教 今のところで、一番最大でいけば100名の3クラスですけども、例えばこれが80という数字になった場合は、これはクラス編成としては2クラスになりますし、40名学級ということになりますよね。一番児童数が多いクラスの上限が40ですので、実際かなりこういう状態で子ども達がどっちを選択されて行かれるかというような状況を判断する中で、正式な数字としてはそういう段階で出てくると思います。

教 カウンセラーのことなんですけども、今、吹田市の教育センターの方から各学校に出張教育相談員という形で臨床心技士等が配置されておりますので、月に多分、二回ぐらいだったと思いますけれども、その予約を取っていただいて、やるということが出来るかと思います。

○ 常時、子ども達の話聞いてあげられる体制を作ってほしいんです。

教 だから、今は年間を通して、それで予定を組んで限られた臨床心技士の枠で組んでおられますので。

○ 後じゃなくって、今現在揺れている子ども達のことを大事にして、今配置してもらいたいと思うんです。

教 新たな配置というのはちょっと無理かと思うんですけど、今配置されている中で十分活用していただくということと、それからもう一つ、教育センターに直電話していただい

て予約を取っていただくということも出来ます。

○ だから、親じゃなくて子どもがいつでも全部言える状態を作っておいてほしいなと思っています。親が連れていくんだったら、それだったらすごく大変なことじゃないですか。それになる前に、子ども達が自分でそういうふうに、後も大事だけでも、今も作っておいてほしいなっていうことです。

教 これは、学校それぞれの担任の先生とか、相談する中で。

○ 学校の先生以外の人に相談したいことってあるでしょ。だから、学校の先生も教育委員会も信用出来なくなっている子ども達に対して、学校の先生に相談をしろというよりも、第三者の立場、第三者の人が来てくれて、そういうところのカウンセラーをしてあげてほしいっていうことです。

教 だから、それは出張教育相談員がいますので、そこを活用していただくということが今できます。

○ 常時は無理ってことですね。

教 今のところは、それが無いということです。

○ その予定もないということですね。

教 ご要望はすごくわかるんですけども、そういうことで今、配置をされてないということなんです。

○ あと、名前の変更というのはどうなんですかね。大体の市町村それでやっていますよね。統廃合になった時に新たに学校を生み出すっていうことで。

教 今のところ、我々は名前の変更というようなことは念頭においていないんですが、もし仮に、我々が提案させていただいてるような案、もしくはそれに類似するような案で、適正化ということが実際に出来れば、いろんなそういう実際の統合に向けての違う角度からの要望が出てくるかもわかりません。その中に、例えば校舎の名称というような話も出てくるかもわかりませんが、それは時間的な状況とかいろんな状況で判断していく必要があるでしょうけども、現在のところ、我々教育委員会としては名称の変更ということについてまでの含みは考えておりません。

○ 例えば、個人的な考えなんですけども、古小の親も青小の親も、「もし北千里小学校が単に別れてくるんだったら、受け入れてもいいよ。」となるかもわからないんですけども、受け入れた時点にもし、名前が変わるとなると、「それは困る。」って言って反対する可能性もありますよね。

教 それは、名称の問題についてはそれぞれ地域のそういう問題もありますし、なかなか難しい問題だと思います。

○ 地域だからその青山台小学校とか古江台小学校にこだわらなくても、出来れば私個人としたら、また新たに一から始まるという意味で学校の名称を変えてもらって、新しい学校の一ページをやっぱり新しい友達と作って行ってほしいなって思うんですけども。

教 まあ、ご意見といたしまして、そういうご意見だということで、承っておきたいと思

います。

発言者 P 氏

P まず、私達北千里小学校 PTA としては、現状でいいというような話は一切しておりません。個人によっていろいろ意見はありますけども、決議としても規模適正化が不要であるとかいうような決議をした覚えもありませんし、問題はあるというふうな認識はしております。意見が違ふのは、要するに、そちらから出された案が、「我々にとってはベストではない。もっといい案があるだろう。」というところですね。もっと困るのは、皆さんのやり方があまりにもヒドイということです。一番最初に提示されたときも、市報すいたにいきなり載せるというところから、もう既成事実かのように扱ってきたというところから、我々はカチンときているわけですね。今回、まだここで説明会をやっているような状況であるにもかかわらず、つまり、正式な決定なんてまだまだ出来ないにもかかわらず、3月に予算を組みましたね。いちおう、我々の掴んでいるところでいくと、9382万円の予算が規模適正化の予算として組まれていますよね。これは3月下旬の議会で通りました。それでこの議会に対して、また教育委員会に対して、私達は「正式決定を待ってからこの執行をやってくれ。」という要望書を出しました。ところが、皆さんは3月の下旬に予算が通って、もう4月3日には、起案をされておりますよね。つまり、予算執行の起案をされている。そして、4月11日には、設計のための入札を行いましたよね。もう、4月にいきなりもう入札をやっていますよね。現在、設計はもう終わったんでしょかね。そういう状況ですよ。まだ、決定も何もしていない状態で、予算執行だけが着々と進んでいるというわけですよ。一体、何のための説明会なのか。我々の意向というのはまったく無視して、予算は執行されていってまますよね。我々が要望しているにもかかわらず予算は執行されている。非常におかしいというふうに思うわけです。これは要するに、行政としてのこれは合理的なやり方ではありません。なぜならば、まだ我々は合意をしてないわけですから、最終的にどれだけの人数が青小に行き、どれだけの人数が古小に行くかわからないわけですよ。でも、最低限の設備はしなければいけないということで、今から設計を終えて工事に入るわけですよ。どれだけの教室を整備されるんですか。我々、前に視察に行ったときにもらった資料では青小は14クラスなんですかね、整備されるのは。でも、今日配られた資料によると、皆さんの推計によると代替案は12から17クラスですよ。3クラス少なくなったらどうなるんですかね。要するに、これは見込みで見切り発射しているもんだから、大体これだけ来るだろうという形でやってるわけですけども、実際どうなるかわかりませんよね。この根拠は一体何なんでしょう。お答えいただけますか。

教 それぞれの受け入れ校につきましては、今回我々が提案させていただいているのが、古江台3丁目の方々が、青山台小学校も選択できるという部分がありまして、予想される児童数に幅があるということ。それで、その幅に応じた形での最低限の教室の整備と

はいえ、その幅をどこに見るかということで、準備が必要になってくるわけですが、青山台小の方は、これは最大であるならば古江台3丁目の在校生の方がみんな青山台小学校に行かれるという可能性もあるわけですが、それは全員行かれるというふうに見ないで、約半数の方が行かれるだろうという想定のもとに整備をしています。古江台小の方は古江台3丁目の方がみんな、古江台小学校に行かれるということを前提に最低限の整備をするということです。

P 要するに、それは見込みであって合理的根拠も何もないわけですよね。合理的根拠もないのに、設計をされているわけですよね。行政としてそういう合理的根拠もなく、こういう計画をたてるということは非常におかしいことであると。それで、うまいこと予想が当たればいいんですけども、二つの可能性がある。それで見込みよりたくさんの人達が来たら教室が足らんということになりますよね。そのときはどうするんですか。

教 教室が足りないというようなケースは出てこないと思います。教室数はあくまで、あるということですので、今50%の見込みで整備しようとしております青山台の方も、ある程度の余分の教室というものも念頭におきながら整備をしております。ほとんどの方が青山台小学校に来られるということを想定した場合に、教室数は足りるわけですが、若干ながらしかの整備というのは、今、整備を進めている分+ α いくつかの教室の整備が必要かと思っておりますけれども、それについてはその数字をつかみ次第、担当しておりますところと急遽話をしまして、これも整備が必要かどうかというようなことも含めて対応をしてみたいというふうに考えております。

P でしたら、未整備のまま学校に通わされるということもあり得るということですよね、言うならば。今整備しているわけですから。それでもし教室数が足りないとすれば、ちゃんと綺麗にしてない教室を急遽使うということになりますと。

教 綺麗にする、しないということではなく、最低限、普通教室として使えるような整備というのを今基本的に考えておりますので、その分については教室数は青山台の方が十分ありますので、それに対応出来るか出来ないかというのを、不足してくる教室数を見ながら判断をしていきます。これは何らかの形で対応を当然教育委員会としてはしていきたいというふうに思っています。

P どんな対応が出来るかっていうのはまったくわかりませんが、もう一つ、もし、予想を下まわって、多くの人達が古小に行った場合は教室は余りますよね。それは、要するに予算の無駄ということではないですか。

教 そういう面からみれば予算の無駄になるかも知れませんが、普通教室の活用についてはいろんな活用方法がありますので、これについてはそういう整備を進めておりますけれども、整備に見合った教室の活用方法というのを考えていきたい。

P でも規模適正化のための予算でありながら、規模適正化のためには使われないということですから、要するに本来の目的は達成していないわけですね。だから、そういう意味では予算無駄であると。この問題の根源は勝手に見切り発射しているからこういうこ

とになるわけですね。ちゃんと我々が合意して、「この人達はこっちへ行きますよ。」とわかっておれば、こんな無駄な予算を組む必要もないわけですし、そして、今も最低限の設備しか出来ないわけですね。これは要するに、「どうなるかわからないから最低限の整備しか出来ませんよ。」と、北小の子ども達は移っても全然メリットなんかどこにもないわけですね。だから、青小の子ども達だって別に最低限の整備だから、受け入れたところで、もちろん学校の規模が大きくなるというメリットがありますけれど学校の設備は同じですね。そういう意味ではメリットはないですね。結局、この計画をちゃんと地域、PTA で合意したうえでやるのが、予算をたてて執行するのが本筋であるのにもかかわらず、それを無視して勝手に進めているからこういうおかしなことが起こるんじゃないんですか。どうでしょう。予算が無駄になる可能性もあるし、追加の予算が必要な可能性もあるし、二つの可能性というのがあるわけですね。

教 勝手に進めているというふうな見方も出来るのかもわかりませんが、我々はあくまで19年の4月実施を目標にしていると。その目標にするうえでは、やはり最低の受け入れの準備態勢は整えておく必要があるだろうということで予算化をお願いしたんです。

P ですから、平成19年度に実施しなければいけない合理的根拠なんかどこにもないわけですから。その根拠は理由は理由にならないわけですよ。やっぱり、我々とちゃんと合意して、それから予算をたてて何が遅いんですか。その方が合理的な計画が出来るじゃないですか。お互い納得出来るような計画が出来るじゃないですか。納得もしないまま何でその計画を進めるわけですか。ですから、非常に無理なことになっているわけですよ。これでまた、私達怒るわけですからね。今日もいっぱい怒っていましたよね。当然ですよそんなものは。話し合いの最中に何でその予算執行するんですか。我々の意見は完全に無視されてます。どうでしょう。

教 先ほどもその予算の計上、それから予算の執行については説明をしている通りです。我々としては、地域の皆さん方のご理解とご協力を得たいということで、こういう説明会もさせていただいておりますけれども、意見の対立が非常にございますので、最終はP氏がおっしゃっているように、合意がないというようなことがあるかも知れません。我々としては、出来るだけそういう事態は避けたいというふうに思いますけれども意見の違いがある以上、我々としては合意がなくても最終は執行するということもありうると思います。

P 合意がなくて執行するんですか。地域寄りですらにPTA無視ですね。
会場より 話が違うじゃないですか。

教 この問題については青山台住区、それから古江台住区、3小学校PTAが関係しているわけですね。それで、私が先ほどから説明していますように、地域全体がどういうふうにお考えになってるかということが、やはり一番ポイントでありますので、その中で唯一反対されてる北千里小学校があるわけですが、北千里小学校の合意がなければ、

この適正案が実施出来ないというふうには思っておりません。

会場より 地域の意見って何なんでしょうね。

P その地域の意見とか本当に聞いたんですか。それは一部の人だけでしょ。

会場より PTA も地域じゃないんですか。

会場より 大多数の意見が地域の意見にならないんですか。地域の説明会でしょ。

P 唯一ってどっから出てくるんですか。

教 発言されていますのは、北千里小学校の子どもさんがおられる PTA の皆さんが大半の意見を述べられておられますので。

会場より 興味がないから来ないんじゃないんですか。興味があるからみんながんばって来ているんじゃないんですか。

教 だから、他の人がその地域全体がもちろん反対されていたら、我々としても実現が出来ないわけですけども。

会場より 子どもが通ってへんのになんか意見の反対とか賛成があるんですか。

会場より どこに賛成があるの。言ってくれ。

会場より 主役は誰や。子どもやないか。

教 ちょっとね、今はP氏の発言に対しての答弁ですので、今おっしゃるような形での発言はちょっと。

会場より だって野次が飛んでいるのは一生懸命やったら意見飛ぶんじゃないんですか。

教 気持ちはよくわかりますから。

会場より 私は言い続けますから。

教 今、先ほどもご発言なさっていますしね。

P 今日は非常に重大な発言をされましたよね、北野理事。我々の声をまったく無視するということですよ。

教 いえ無視はしていないですよ。

P そうじゃないですか。唯一反対している北千里小学校を無視するんでしょ。それで進めるというわけでしょう。話し合いの余地も何もないということです。

教 私が言っていますのは、絶対にその PTA の合意がなければ出来ないというふうには考えてないということです。無視はしていません。

P 合意が出来ないどころか、我々は反対しているんです、この案に関してはね。規模適正化に対しては反対していませんよ。でも、この案に対しては反対です。もっといい案があるだろう。我々を説得出来てないっていうんです。もう二年以上わたってこれをやっているわけですよ。全然、説得出来ていませんよ。要するに、この案はまったく良くないという、もっといい案があるでしょう。それを考えるべきです。こういうやり方はやめてください。我々を無視して予算を執行するというのは。さっき言ったように、無駄な出費になる可能性がある。また、これでは不十分である可能性があるという。この計画自体非常におかしい。この予算執行計画自体が非常に問題があるという。行政とし

てそんな支出をしていいんですか。どうでしょう。

教 我々としましては、当然、この予算が議会で承認を得られましたので、だから当然、それは提案していただいた以上、それを執行するのが我々の責任ですので執行はさせていただきます。ただし、無駄になるのかどうかというのはご意見がありますので、無駄にならないような努力はさせていただきます。

P 無駄にならないっていうよりも、無駄になりますよ。要するに、まだ決定もしてないのに予算を出したっていうことです。

教 これは何回も説明していますように、「我々は案として19年4月に実施しますよ。」ということで、提案させていただいているわけですね。仮に、これが今回予算を計上しなければ工事が出来ないわけですから、そうしますと工事というのは夏休みに限定されますので、学校の場合は。そうすると、今回予算を上げなければ、我々はこの計画案を撤回しないとイケません。そういうことにはなっていないので、我々としては、この案の保証というんですかね、実現をするためには、最低の部分は用意させていただいたということでございます。

P その答弁は嘘だと思います。何でかという、一番最初の話ではそんな予算なしに1年後に実行するという提案がされていたじゃないですか。要するに、予算と関係なしにこれ実行出来ますよと。だから今の完全に嘘です。

教 どういう意味ですか。

P 一番最初にこの第2期実施計画（案）が出されたときは、予算も裏付けも何にもありませんでした。でも、一年後に執行するというにしていますよ。

教 いや、だから私どもも11月に提案したときには、予算をもっていませんでした。同じです。

P だから一番最初の提案のときにはなかったわけです、16年の時は。

教 だから、11月に提案したときも予算はなかったです。同じです。

P だから16年のときは、それで予算を取ってなかったでしょ。

教 だから、途中で予算をとる予定でやられたと思いますよ。

P だから、それだったら計画が承認されて、それで予算を計上するんだったらわかるんですよ。

教 いや、そういうふうには説明してないと思いますよ。

P 我々は予算の説明なんて16年度に受けていませんよ。元々ないんだから。別にいいですよ、予算を計上しなくたって、それをやろうと思えば出来たはずなんですよ。だから、なんで16年度は予算なしに、計画を発表してですね。

教 前回（16年度）の途中で、予算を提案する考えだったと思いますよ。

会場より 今回も途中でいいやろう。

会場より 何で今回は途中からやないねん。何で最初からするんや言うてんねん。

教 だから11月に提案したときは予算を持ってませんでした。

会場より 前の話は4月に提案があって、その次の3月にですね、1年しかなかった。4月からでも出来るんじゃないんですか。

P 大体、予算の計上というのは全然根拠ないですよ。

教 いえ、だから言ってます。小学校の場合は、夏休みにしか工事出来ませんので、そうしますと今年の夏しか工事出来ないわけです。そのときに準備出来てなかったら、19年4月は出来ないわけです。だから、提案させていただいて執行するという事です。

P だから、16年にこの計画を出されたときは17年度実施だと言ったわけですよ。どうやってやるの、それを。

会場より 来年やるって言うたやん。

教 おっしゃっているが意味がわかりました。どういう中身でおっしゃっているのかがよくわかったんですけども、今回提案してるのは予算の裏付けがあって提案してると。「16年に提案した分は予算の裏付けがないのに提案したやないか。」と、「それとどない違うねん。」という話ですよ。確かに我々も、今おっしゃったように(16年度は)予算の裏付けなしに提案はさせていただきました。たとえば、協議する中で補正(予算)を組むとか、そういう形で対応するとか、もしくは給食なんかも給食室の整備を前提にしないで、例えば、どこかで作ってもらったものを北千里に運んでくるとか、そういうことも念頭にいれながら、話を進めてきたということもありまして、16年度のいわゆる目標とする「年月日」というか、いちおう17年4月1日ということでしたけれども、その辺のこの予算のお話も含めた形での精査ではなかったということが我々の一つの反省材料として、今回提案する以上は、やはりそういう予算的な裏付けは必要だということで、今回18年度予算に計上をさせていただいたということです。

会場より 一つだけ、さっきおっしゃいましたけども、今日はPTAさんだけでなしに、私も一地域の住民ですので、誤解ないようにお願いしたいと思います。それと、言いましたように全体に配っておられませんし、地域の声を吹上がっているとは言いがたいと思っていますので、もうちょっと謙虚にちょっとじっくり検討してから、先ほど言いましたように、みんなボランティアでここに残っているのは、ほとんど地域活動したメンバーですので、このままいったら本当に角が立ってややこしくなりますので。決してPTAさんだけじゃないんですよ。くれぐれも、こういうやり方マズイと思いますよ。

P 予算をたてた理由というのが私達にはまったく納得出来ないということですね。その合意があって初めて執行出来るということです。この二点確認いたします。

発言者Q氏

Q 私が最後だということで、いろいろな方からのご意見あったかと思うんですけども、私自身が一番今心配しておりますのは、仮に来年4月から北千里小学校の児童が二つに、古江台小学校と青山台小学校に通うようになったとして、このままでは、やはり親同士の確執みたいなものが引き金になって、教職員の方々も含めたこの小学校の運営そのも

のが通常通り本当に運んでいくんだらうかというようなところを一番心配していることの一つです。小学校が仮になくなったとしても、やはりこの争いの火種というか、この感情、気持ちですね、それはなくなるものだというふうに考えています。あるいは、それは憎しみといったものになるかもしれないです。今日の地域の説明会も、11時から質疑応答が始まってうんざりするような3時間が過ぎようとしているんですけども、まだ、このうんざりのほうがまだマシやというふうに考えているんです。というのは、来年4月から、例えば私のところだと子どもが3年生ですので、来年4月からになると4年、5年、6年の3年間、青山台小学校に通うということになるんですけども、「それは3年間もうんざりしないとあかんのかな」、あるいは「ストレスを持ったまま3年間もないといけないのかな。」というふうに考えております。ですので、この会議で味わったような3時間というのは実はまだまだマシな方で、私達がこの分断されて通うようになれば、ひょんなことから親同士の争い、それが学校の先生も巻き込むような形、仮に不登校みたいな形になっていったら、「それはどこそこが悪いや。」みたいな話になってきますので、「あれがなかったら、あんな解決のされ方がなかったら、あんなふうに北千里小学校がなくならなかったら、今頃、うちの子どもはこんなふうになれへんかったわ。」みたいな、そういうような意見とかが具体的に出てくるんじゃないだろうかなと、これはあくまで推測なんですけれども、そのような心配をしております。ですので、今の私達はこうやって事実として争いみたいなことはあるんですけども、それはまだマシなんじゃないかなと、今の方がまだマシだというふうな感じで考えています。もし、このまま理事がおっしゃったように、ひょっとしたら強行して、市教委の方で努力はしていただくと思うんですけども、12月の条例改正、そして来年の4月からこれは実施ということになりましたら、それは親としてもこれは思いを踏みにじられたわけになるわけですから、そのような気持ちというのは、なかなか消えないものだと思うんですね、人として。そういったところもありますので、これは十分にやはり考えていただきたいというふうに思っているんです。親の都合でさえ、子どもが泣きじゃくるのであれば、市の都合で移転させられてしまうのであるならば、子どもばかりか親も泣きじゃくらなあかんというような形になってしまいますので、これは直接学校教育とか義務教育とか関係ない範疇かもしれないんですけども、十分そこはやはり考慮いただいて、理事はもちろん正直な気持ちで、合意を得られない場合のことでおっしゃったのかもしれないんですけども、やはりご発言等は特にご注意くださいと。少なくとも火種が残るような形ではなくて、やはりどんなことしてでもお互い努力して、やはり合意を得るということを前提にさせていただかないと、後々、やはり非常に困った状況になってくると思うんですね。そういったことは、私も最近ようやく気づき始めたということもありまして、なかなかみてみないとわからない部分ってあると思うんです。でも、なってしまったらもうその時は遅いときですので、この実施されてしまった後に、いろいろ争いがあるって、「こんなことやったら、もっと前の段階でいろいろ解決しといたら良

かった。」と、来年の4月以降で実際、移ってしまって、そこでいろんな争いが起こってしまって、「こんな争いが起こるんだったら何故1年前にもうちょっとちゃんと話し合っ
て、いろんなことを解決しておかなかったのか。」というふうに思っても、これは後の祭
りですので、それを考えると、今確かに合意を得ることが出来ないような状況だと思
うんですね、正直。なかなか難しい。けれども、やっぱりやっていかないと、やはりそれ
は双方、特に市教委の方々には、これは努力をしていただかないと難しいのではないか
なというふうに思っています。それで、どういうふうにしていただきたいという
のは、まず第一点は、やはりあんまり嘘をつくみたいな感じのことは今後一切やらない
でいただきたいというふうに思っています。ただでさえ、北千里小学校の天井扇がつい
ていない、最初はそうだった。抗議して初めて北千里小学校の天井扇がつくよ
うになった。それをもっともっと考えていったら、実は吹田の36の小学校のうち35の小学校
が、少なくとももうすでに前年度、前々年度ぐらいから天井扇がつけ始められていた。
ところが北千里小学校は一個も付いていなかった。一個も付いていなかったところがも
う全然なしで最後までいきそうだったというようなこととかですね、それから、小学校
のトイレのことにしても、当時の小学校6年生の子達が自分達は卒業するけれども、在
校生のためにこんなトイレがあった方がいいんじゃないかというふうに、6年生の児童
が一生懸命考えてトイレのアイデアを出した。そして、それを市の教育委員会に小学
校を通じて提出した。ところが、年をあけると「北千里小学校はなくなるんだから、も
うトイレはいらないだろう。」という話になっていた。そうすると、小学校6年生の子
達が一生懸命考えたあれは一体なんだったのということになります。それも、抗議して初
めて「ほんならしゃーないから。」とは言っていないとは思いますがけれども、まあ感
覚的に「しゃーないから6年生も言ったことやろうしトイレつけようか。」ということ
では、これはどうしても感情的に、やはり怒りを覚えるというかなってしまいます。ま
してや、教育の機会均等というのは、差別なくということですので、吹田の小学校の普
通にあるものは北千里小学校にも普通につけていただきたいというふうに思ってい
ます。それは、「もうなくなるからつけんでいいやん。」という話とは、全然次元の違
う話だと思うんですね。仮に、明日北千里小学校がなくなったとしても、私は今日
「天井扇をつけてくれ。トイレだけやってくれ。」と言います。「誰も使えへんやんか。
明日やったるやんか。」ということであっても、やっぱり「つけてくれ。」と言いま
す。やはり、それくらい理念とか、機会均等というのをやはり重要な考えだとい
うか、それは人として当たり前のことだと思いますし、人権にもやっぱり関わって
くることだと思いますので、「もうなくなるからええやんか。」というようなことは
なしにいただきたいというふうに思っている。それは、一言でいうならやはり、差
別を受けていると言われても仕方ない、訴えられても仕方ないことですので、そ
の辺の配慮はお願いしたいというふうに思っています。それと、もう一つは、「北千
里小学校はこういうふうな意見をもっています。」とかいうようなことは、憶測では
これは他の地域の方や他の小学校のPTAの方々に発言

をこれは控えていただきたいなというふうに思っています。正直、反対を強く思っ
てらっしゃる方もいますけれども、やはり北千里小学校のPTAの中には賛成の方もいら
っしゃるかと思えます。ですので、憶測で「こうちゃうか。」というようなことは、や
はり言わないでいただきたいなというふうに思っています。特に、問題になっている
のは、「青山台1丁目の児童がみんな青山台小学校に行ってもいいと思っている。」と
いうような推測での発言がありましたが、それもあくまでやはり推測ですので、市教
委の方がそういうふうに発言されると、地域の方が全て「青山台1丁目の子は
みんな青小に行きたがっているのに。」というような感じで受け取りますので、
それも、そういうような誤解を招かないようお願いしたいなというふうに思っ
ています。以上の点はご了解いただけましたでしょうか。

教 先ほどのP氏からの発言、それからQ氏の発言をもらいまして、私ちょっと
言葉を激することがありましたけれども、ちょっと感情的になりまして大変申し
訳ないなというふうに思っております。当然こういう話を進めていくためには、
最初から言っていますように当然ご理解が必要となります。我々教育委員会
としましては、そういう努力は当然させてもらわなければいけないという
ふうに思っています。ただ、ご理解出来るかどうかというのは、それはいろ
んな条件がありますので、そういう場合もあるかもわかりませんが、教育
委員会としては、当然合意を得るための努力はしたいというふうには思
います。ただ、我々はこれを提案させていただいてから、もう3年近くなる
わけですが、一貫してずっとそういう反対ということで話が進んできてお
ります。我々としても、このままでいいというふうには思っておりません
でして、どこかでやはり着地点と言いますか、そういうところを見つけて、
お互いに不満があるかわからないけれども、どこかでやはりこの問題は
解決したいというのは、当然我々としては思っているわけですが、その
ための努力とそのための説明はさせていただこうというふうに思ってお
ります。Q氏が言われました嘘とかどうかとか、そういうことは我々とし
ては意図としてやっているということではなくて、たまたま、発言が不
十分でご迷惑をかけたというようなことがあるかもわかりませんが、そ
れは、そういう指摘がございましたら、その分については十分反省はして
まいりたいというふうに考えています。それから、天井扇をはじめ機会均
等の話がございまして、これはもう当然のことだというふうに思うん
です。だから、こういう北千里小学校の統廃合の話になっておりますけ
れども、そこを通過する子ども達は、それは1回限りのことですので、
その子ども達がそのために辛抱していいというふうには思っておりませ
んでして、当然、おっしゃっているような均等というか、その条件的に
は公平な条件は教育委員会としてはする必要がございませぬけれども、
これはちょっと弁解になりますけれども、なかなか予算を教育委員会が
もっていないために、その辺での案については役所内でもいろいろ意見
があります。しかし、そうはいえ教育委員会としては当然そういうこと
については、皆さんと同じような状況の中で教育を受けていただくとい
うのは当たり前のことですので、我々はそのための努力は

させてもらいたいというふうに思います。

Q それと、最後に質問させていただきたいと思っているんですけども、先ほど発言された方の中に、「実はこの問題というのはいまもう10年、11年くらい前からあった問題なんだ。」と、「具体的には青山台小学校の過少化の問題は11年前からだったんだ。」ということなんですけれども、それは本当なんですか。それと、市の教育委員会の方で、これが非常に問題であると、対策を取らねばならないというふうに考えたのは、いつからだったんですか。これは単純に考えてなんですけど、11年前から問題があったのは本当だったと思うんです、そうおっしゃっていたんでね。そう感じてらっしゃったんで。11年前からそういうふうな過少化の問題があるんだとしたら、早い話、11年前からやっていて10年後にこうなりますよって言うていたら、別にいけていたような問題でもあると違うかなと。単純に考えてですよ、単純に考えてです。「今、時間がない。時間がない。早くしなければならぬ。」現実そうです。けれども、元を正せば一体どこなのか。本当を言うと早くに気がついていて、もっと長期的な展望にたって、それか、5年計画であるとか7年計画であるとか、やっていけばこんなふうにもめなかったんじゃないかなというふうに考えているわけなんです。それを思うと、今、今日この場でお聞きしました11年前から問題は潜在化していたということであるならば、そのときからこの地域で一生懸命話し合っておけば、もうちょっと、今、ひょっとしたら現在、北小はなくなっているかもしれない。けれども、いろんな人が納得して慣れていたんじゃないかなというふうに思うんです。市教委の方も「この問題は早くしなければいけない。」とおっしゃいますけれども、それを聞いて単純に思うのは、じゃあ「何故もっと早く気がつかなかったんですか。」という問題です。気がつかなかったのは、やはりこれは落ち度じゃないでしょうか。もし、そこが落ち度であるならば、まず市教委の方で「これは落ち度でした。」と、「気がつくのが遅すぎました。」と。それをまずきちっと表明していただかないと、単純にこれは私は肩を持つつもりでは決してないですけども、客観的に見て、別にごねていると言われると、いろいろ言っている人は可哀想やなと思いますので、まずやっぱり早く気がついて、そこから、例えば、「7年前から初めとったら良かったんちゃうんか。」というふうに思うわけなんです。やはり、「もう来年せなあかん。」とか「もう2年後には絶対になつとかなあかん。」とか、今は現状ですから、この現実ですから、それは早くしないといけないかもしれない。でも大前提として、もっと早くに気がついていけばもう少しいけてたんちがうかな。じゃあ、何故それが気がつかなかったのかというところです。もし、これが仮に本当に気がつかなかったのであるならば、落ち度は落ち度として、これは率直に認めていただいて、まずそれは表明していただきたいというふうに思っております。

教 ニュータウンの子ども達がだんだん減少していくというのは、それは相当以前からわかっております、青山台小学校についても、規模適正が外れていくというのはだいぶ以前からそういうことがわかっていたわけですから。それは当然、児童推計もしますし、

人数がわかるわけですから。ただ、教育委員会として、そうしたらどのような対応すればいいのかということについて、具体的にプロジェクトを組んで研究を始めたのが、平成12年度です。平成12年度に庁内に研究会を設けて、そういう学校規模の適正についてはどういうふうに対応し、どういうふうに考えたらいいかというようなことを、その研究会の中でいろんな議論をしたわけです。それで、一定の議論がまとまりまして、それでもって平成13年度に大学の先生を入れた中で、審議会を設置をしまして、その中で学校規模適正化について審議会の方から答申をいただいたと。その答申に基づいて、吹田市の方で考え方をまとめて、それで第1期、第2期という形で、計画案を提案をしましてまいりましたので、だから、おっしゃっているように相当以前からニュータウンの子ども達の児童数が減少するということについては、数字としてはわかっておりましたけれども、そのための具体的な対応について教育委員会としてどうすべきかということについては、その当時はまだ考え方がまとまっていなかったということです。

Q 考え方がまとまるにしても12年から始めないと現在に至らないであるならば、やはり時間が、今後考え方をまとめるだけじゃなくて、実際に計画を進めていくわけですから、これは時間がかかると、急がばまわれじゃないですけども、非常に急がなければならぬ問題であると認識はしていますけれども、しかし、一方これは時間をきちっと考えていく必要もあるかと思えます。今まで私達は市教委の方も含めて、あるいは北千里小学校PTAの方も考えて、時間の使い方については非常にこれはよくなかったというふうに思いますので、そこはこのまま泥試合的にそんなことをしていてもなかなか進まないわけですから、やはり柔軟に考えていただいて、北小のPTAの方の声をもう少し真正面から受けていっていただきたいというふうにやはり思います。確かに、市で出来ること、出来ないことというのもあると思えます。けれども、特区申請なんかは適用されたりとかして、ある市では国語以外は全部英語で授業するとかいうようなことも現実的にやっているわけですから、そういうところもあると。そんな思い切ったことも出来るわけなんですから、市教委の方で自ら可能性を狭めるというようなことはしないで、もっともっといろんな可能性、そして柔軟な姿勢っていうのを示していただきたいなというふうに思います。

教 大変長時間にわたりましたが、本日貴重なお時間いただきまして本当にありがとうございます。それでは、ただ今をもちまして本日の説明会を終了させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。